

0900迄 (1424件)

851年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>サマン朝(サマルカント)アミール「Ahmad ibn Asad」(~864年死去)
851年-04:00|オマーン| |||<即位>オマーン(元首)イマーム:アル=サルト・ビン・マリク
851年-02:00|エジプト| |||<就任>アッバース朝エジプト第73代アミール:カオト・アベル・ワハド・イブン・ヤヒア(~852)
851年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ベネチア大公「テオドルシク1世」
851年-01:00|イタリヤ| |||<就任>サレルノ公「シコ2世」(~853年退位~855年死去)
851年-01:00|スペイン| |||<即位>ナバラ王・パンプローナ王「ガルシア・インゲス」イコニアスタの男子(~870年死去)
851年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネチア大公「テオドルガー」(~854年)
851年-01:00|フランス| |||<即位>メヌ公「ロベール豪胆公」(~856年)
851年2月15日-09:00|日本| ||嘉祥4年1月11日|<任命>鎮守府将軍「伴三宗」(~08540911(嘉祥4年1月11日))
851年2月17日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|嘉祥4年1月13日|文徳天皇は先帝・仁明天皇の菩提を弔うためにその陵の傍らに清涼殿の建物を移して寺とし嘉祥寺とした
851年3月-01:00|フランス| |||<死去>ブルターニュ公「ノミエ(ネウエ)」
851年3月-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公「エリスベ」エヴァンス伯、ノミエの息子(後に王として統治~8571102教会の祭壇にて陣内にいた従兄弟のガモンに暗殺された)
851年6月-03:00|イラク| |||<死去>ターヒル朝(バグダード政権)国王「Muhammad ibn Ishaq ibn Ibrahim」
851年6月-03:00|イラク| |||<即位>ターヒル朝(バグダード政権)国王「Abdallah ibn Ishaq ibn Ibrahim」⇒「Muhammad ibn Abdallah ibn Tahir」(~867.11死去)
851年6月1日-09:00|日本| ||仁寿1年4月28日|嘉祥から仁寿に改元
852年-02:00|ブルガリア| |||<死去>ブルガリア帝国ハン「プレシアン1世」
852年-02:00|エジプト| |||<就任>アッバース朝エジプト第74代アミール:アンバサ・ヒン・イシャク・アルタビ(~856解任)
852年-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア帝国ハン「ボリス1世(ミハイル)」(~889年退位~09020502死去)
852年-01:00|フランス| |||<死去>カカソヌ伯・トゥールズ伯「フレドロン」
852年-01:00|フランス| |||<就任>カカソヌ伯・トゥールズ伯「レモン1世」(~863年廃位)
852年-01:00|フランス| |||<就任>トロア伯「ウート1世」(~859年)
852年-01:00|フランス| |||<就任>ナント伯「Salomon de Bretagne」(~860年)
852年-01:00|スペイン| |||<就任>バルセロナ伯・ルシヨン伯・アンプロリアス伯「オダリック」イストラ辺境伯スフレッドの子/シローナ伯、ルサリョー伯、セプティマニア辺境伯(~858年)
852年-01:00|フランス| |||<即位>アキテーヌ公「ボワター伯家ヌルフ1世」(~866年)
852年-01:00|イタリヤ| |||<即位>パトリ首長国アミール「Mufarrag ibn Sallam」(~857年)
852年 00:00|イギリス| |||<死去>マシア王「ヘオルトウルフ」
852年 00:00|イギリス| |||<即位>マシア王「ブルグレド」(~874年)
852年2月24日-09:00|日本| ||仁寿2年2月|夕刻西に彗星現る。長さ5丈
852年3月25日-08:00|中国| ||唐・大中6年3月|彗星が觜・参に出現
852年9月22日-01:00|スペイン| |||<死去>後ウマイヤ朝第4代アミール「アブド・アッラフマーン2世」
852年9月22日-01:00|スペイン| |||<即位>後ウマイヤ朝第5代アミール「ムハンマド1世」(~886年死去)
852年10月17日-08:00|中国| ||唐・大中6年3月|リョウが昌・資の二州を寇した
853年-01:00|フランス| |||<死去>オートン伯「ケラン(ワラン)」オウヴェルニュ伯、ブロワアンス公
853年-01:00|スペイン/フランス| |||<就任>アル伯・オートン伯「イザンバール」ケランとアッバ(セオレンの娘)の子(~858年死去)
853年-01:00|フランス| |||<就任>オセル伯「Adelaide1世」(~864年)
853年-01:00|イタリヤ| |||<即位>サレルノ公「ヘーター」⇒「アハマー」(~861年)
853年-01:00|イタリヤ| |||<退位>サレルノ公「シコ2世」(~855年死去)
853年-01:00|セルビア/ブルガリア| |||ブルガール=セルビア戦争中、ブルガリアのクニャズ・ボリス1世が派遣したウラジミール・ラサテ王子の攻撃をセルビア王「ムティミル」が撃退
853年 00:00|イギリス| |||<即位>ノザンブリア王「Osberht」(~08661121)
853年 00:00|アイルランド| |||ノース人(ゲアキング)がダブリンを占領し、ダブリン王国を建国(~1170年)
853年2月3日-09:00|日本| ||仁寿2年12月22日|<死去>小野篁(歌人・政治家)
853年3月13日-09:00|日本|京都府京都市|仁寿3年2月|京師・洛外に天然痘(痘瘡)流行、死者多数
853年4月12日-09:00|日本|神奈川県藤沢市|仁寿3年3月|慈覚大師が江島神社中津宮創建
853年5月29日-09:00|日本| ||仁寿3年4月18日|<死去>仁明天皇皇子成康親王、痘瘡の為(17/母:女御藤原貞子)
853年7月13日-09:00|日本| ||仁寿3年6月4日|<死去>桓武天皇皇子平葛原(68/母:夫人多治比真宗、元名:葛原親王)
853年9月7日-09:00|日本|京都府京都市|仁寿3年8月1日|右京で失火、民家180余焼失
853年9月30日-09:00|日本| ||仁寿3年8月24日|<死去>百済河成(生年782年/公家、画家)
853年10月1日 00:00|イギリス| |||<結婚>ウェセックス王エゼルウルフ
854年-07:00|ベトナム| |||<即位>チャンパ王(東ガーン朝)「インドラヴァルマン2世」(~898年)
854年-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王「リック1世」
854年-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王「リック2世(エリク・ハル)」(~864年)
854年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネチア大公「アデルシ」(~878.5暗殺される)
854年 00:00|イギリス| |||<死去>イーストアングリア王「Athelweard」
854年 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Eadmund」(~08691120死去)
854年2月1日-08:00|中国| ||唐・大中8年1月1日|朔、日食があった
854年5月13日-09:00|日本|京都府京都市|仁寿4年4月13日|文徳天皇、梨本院より冷然院に移る

0900迄 (1424件)

854年5月28日-09:00|日本| ||仁寿4年4月28日|陸奥国で兵士が逃亡、叛乱
854年9月12日-09:00|日本| ||仁寿4年8月17日|<任命>鎮守府将軍「文室道世」(~不詳)
854年12月23日-09:00|日本| ||斉衡1年11月30日|仁寿から斉衡に改元
855年-05:00|ウズベキスタン| ||<死去>サマン朝(シャッシュ)アミール「Yahya ibn Asad」
855年-04:00|ジョージア| ||<即位>アブハジ2世「アトリス2世」(~864年)
855年-03:30|イラン| ||<即位>ジャスタニス朝国王「Justan2世」(~856年)
855年-03:30|イラン| ||<即位>パダス朝君主「Faridun ibn Qarin」
855年-02:00|ギリシャ| ||<就任>イクリティヤ(クレタ島)首長「シアイブ1世・ブン・ウマル」(~880年)
855年-02:00|トルコ| ||東ローマ帝国皇帝(アモリア朝)ミカエル3世メソイウスが叔父のバルダスと協力してにクーデターを起こし、テオドラを修道院に追放して親政を開始(~08670923)
855年-01:00|フランス| ||<即位>アキテーヌ王(カリンギ朝)「シャルル」西フランク王シャルル2世の子、ルイ2世の弟(~866年)
855年 00:00|イギリス| ||<死去>ケント王「Aethelstan Athelwulfes sunu」
855年 00:00|イギリス| ||<死去>ホイス王「シンゲン・アブ・ゲル」
855年 00:00|イギリス| ||<即位>ウェセックス王代理「エセルバート・Athelwulfes sunu」(⇒856年王~08601220死去)
855年 00:00|イギリス| ||<即位>ケント王「Aethelberht Athelwulfes sunu(Adelberht3世)」(~08601220)
855年 00:00|イギリス| ||ホイスをグイットが統治(~878年)
855年1月23日-09:00|日本|静岡県菊川市|斉衡2年|天岳院創建(→応声教院)
855年2月21日-09:00|日本| ||斉衡2年2月|東北に長星あり
855年7月10日-09:00|日本|奈良県奈良市|斉衡2年5月23日|東大寺大仏の仏頭が、5月10日と11日の地震が原因で落下/9月28日修繕
855年7月17日-01:00|パチカン| ||<死去>第103代ローマ教皇「レオ4世」
855年8月17日-08:00|中国| ||唐・大中9年7月|この月、浙江東道軍で乱が起こり、その観察使の李訥を追放
855年9月21日-01:00|パチカン| ||<就任>対立教皇「アスタシウス3世ビプリアリウス」(~24日)
855年9月23日-01:00|フランス| ||<即位>フロマンティウス王「シャルル(カール)」ロマーヌ1世の末子/フロマンティウス・ブルグンデイラ成る中フランク王国の南半分を継承(~8630124死去、一代でフロマンティウス王家は断絶、シャルルの兄であるイタリア王ロドヴィコ2世がフロマンティウス王を兼ねた)
855年9月29日-01:00|ドイツ/フランス/イタリア/オーストリア| ||<死去>フランク・ローマ皇帝「ロタリウス1世」
855年9月29日-01:00|パチカン| ||<就任>第104代ローマ教皇「ベネクトゥス3世」(~08580417死去)
855年9月29日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| ||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝「ロドヴィコ2世」イタリア王(~08750812没)
855年9月29日-01:00|ベルギー/フランス/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<即位>ロランギア王「ロタル2世」ロタル1世の次男/中フランク王国の北半分(ロランギア)を継承(~08690808死去)
855年11月30日-09:00|日本|京都府京都市|斉衡2年10月18日|山崎津頭で失火、民家300余戸焼失
856年-08:00|インドネシア| ||<即位>古マラム王国国王「ライ・カワング」(~890年)
856年-08:00|インドネシア| ||ジャワ島のプランバナン寺院が建立される
856年-05:30|インド| ||カシミールのカルコタ朝が滅び、ウバハ朝がおこる
856年-04:30|アフガニスタン| ||<死去>サマン朝(ヘラート)アミール「Ilyas ibn Asad」
856年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>サマン朝(ヘラート)アミール「Ibrahim ibn Ilyas」(~867年)
856年-03:30|イラン| ||<即位>ジャスタニス朝国王「Vahsudan of Daylam」(~865年)
856年-02:00|エジプト| ||<就任>アッバース朝エジプト第75代アミール「ヤシド・イブン・アブダラ・アルハワニ」(~867解任)
856年-01:00|チュニシア| ||<死去>アグラ朝「ムハンマド1世」
856年-01:00|チュニシア| ||<即位>アグラ朝「マフマト」(~863年)
856年-01:00|フランス| ||<即位>メヌ公「ルイ吃音公」(~858年)
856年2月10日-09:00|日本|京都府京都市西京区|斉衡2年|左大臣藤原緒嗣が自らの山荘に神修上人を開山として法輪寺(のちに仙遊寺→泉涌寺/京都府)創建
856年2月10日-08:00|中国| ||唐・大中10年|唐、扈特勤をウルグ=テングリデ=クト=ブルミシュ=アルブ=キュリグ=ヒルグ=カガン(懷建可汗)に冊立
856年3月17日-09:00|日本| ||斉衡3年2月8日|<任命>鎮守府将軍「小野春枝」(~不詳)
856年7月30日-09:00|日本| ||斉衡3年6月25日|<死去>源潔姫、嵯峨天皇の皇女、藤原良房室(生年810年)
856年12月22日-03:30|イラン| ||イランのタムガンで地震、死者20万人
856年12月28日-01:00|フランス/ノルウェー| ||ヴァイキング(ノルマン人)、パリを攻撃し、セヌ左岸を翌年にかけて占拠し、教会・修道院・耕作地を荒らす
857年-01:00|フランス| ||<就任>ホワイエ伯「Gauzbert」(~892年)
857年-01:00|チェコ/スロバキア/ハンガリー| ||<即位>ニトラ公「スヴァトプルク1世」(~870年)
857年-01:00|イタリア| ||<即位>バリー首長国アミール「Sawdan」(~871年)
857年1月30日-08:00|中国| ||渤海・咸和27年|<即位>渤海国王「大虔晃」(~咸通12年(871年)死去)
857年2月15日-09:00|日本| ||斉衡4年1月17日|「開元大衍暦」廃止。「五紀暦」を採用
857年3月18日-09:00|日本| ||斉衡4年2月19日|藤原良房が太政大臣に就任(人臣太政大臣の初め)
857年3月20日-09:00|日本| ||天安1年2月21日|斉衡から天安に改元
857年3月31日-09:00|日本|秋田県大館市|天安1年3月3日|地震により、大館地方松峰山伝寿院の堂舎が倒壊。山崩れにより仏像が谷底に埋まる
857年5月20日-09:00|日本| ||天安1年4月23日|近江国の相坂(逢坂)関を復活
857年5月27日-08:00|中国| ||唐・大中11年5月|容管軍が乱を起こし、その経略使の王球を追放

0900迄 (1424件)

857年6月25日-09:00|日本|長崎県対馬市|天安1年6月|対馬島で島内の豪族が300人ほどの兵を率いて対馬守を襲撃

857年9月22日-09:00|韓国| ||新羅・憲安王1年9月|<死去>新羅王「文聖王」病死

857年9月22日-09:00|韓国| ||新羅・憲安王1年9月|<即位>新羅王「憲安王」(~08610129死去)

857年9月22日-08:00|中国| ||唐・大中11年9月1日|彗星が房に出現

857年11月2日-01:00|フランス| ||<死去>ブルグニ公「エリス」教会の祭壇にて陣内にいた従兄弟のサモンに暗殺された

857年11月2日-01:00|フランス| ||<即位>ブルグニ公「サモン(サウモン)」レンヌ伯兼ナント伯 エリス に対する反乱を導く(後に王として統治~874年義理の息子であるヴァンヌ伯 パスクヴェン並びにエリスの義理の息子であるグルヴァントの一派によって暗殺された)

858年-01:00|スペイン/フランス| ||<死去>アルル伯・オータン伯「イザンバール」

858年-01:00|スペイン| ||<就任>アルル伯「Gerard」(~868年)

858年-01:00|フランス| ||<就任>オータン伯「ベルナルド2世(毛深脚伯)」ベルナル1世の子(~861年)

858年-01:00|フランス| ||<就任>オーベルニュ伯「William2世」(~862年)

858年-01:00|フランス/スペイン| ||<就任>パルチヤ伯・ルション伯「ウツリー」(~865年);アンブリアス伯(~862年)

858年-01:00|フランス| ||<就任>パリ伯「コンラート」(~859年)

858年1月13日 00:00|イギリス| ||<死去>ウェセックス王「エゼルワフ・Ecgbearhtes sunu」(62歳)

858年1月13日 00:00|イギリス| ||<即位>ウェセックス王「エゼルワルド・Aethelwulfes sunu」(共同統治~08601220~0865.9死去)

858年1月19日-08:00|中国| ||渤海・正永1年|渤海の大虔晃が正永(-870年)と改元

858年2月13日 00:00|イギリス| ||<死去>スコットランド王「Cinaedh mac Ailpin(ケナ1世征服王)」

858年2月13日 00:00|イギリス| ||<即位>スコットランド王「Domhnall mac Ailpin(ドナルド1世)」(~08620413死去)

858年4月17日-01:00|バチカン| ||<死去>第104代ローマ教皇「ベネディクトゥス3世」

858年4月24日-01:00|バチカン| ||<就任>第105代ローマ教皇「ニコラス1世」(~08671113死去)

858年5月25日-09:00|日本|京都府京都市東山区|天安2年4月9日|六道珍皇寺金堂・礼堂焼亡

858年5月25日-08:00|中国| ||唐・大中12年4月9日|嶺南軍が乱を起こし、その節度使の楊弁を追放

858年7月4日-08:00|中国| ||唐・大中12年5月20日|湖南軍が乱を起こし、その觀察使の韓琮を追放

858年7月6日-09:00|日本|京都府京都市|天安2年5月22日|<天安2年平安京大洪水>大雨が続く、川の流れは激しく、ついに水があふれ、すさまじい勢いで平地に水が拡がり橋は流され、道路は川となり、東堀川の水は冷然(冷泉)院の屋敷に流れ込み、庭中がまるで池のようになった/左衛門の府の宿直小屋は流され、公卿や役人たちは、各々の部下を草履や裸足まま率いて競って川べりに行き、堀を造って流水を防いだ/左京も右京も水害となり、死亡者はおびただしい

858年7月20日-09:00|日本|大阪府|天安2年6月7日|和泉国で地震/官舎六十余・民家三十家余を損傷

858年7月20日-08:00|中国| ||唐・大中12年6月6日|江西都將の毛鶴がその觀察使の鄭憲を追放

858年8月4日-08:00|中国| ||唐・大中12年6月21日|南蛮が辺境を寇した

858年8月13日-08:00|中国| ||唐・大中12年7月|容州の將の来正がそむき、処刑された

858年9月11日-08:00|中国| ||唐・大中12年8月|宣歙の將の康全泰がその觀察使の鄭薰を追放し、淮南節度使の崔鉉が宣歙池觀察処置使を兼ねてこれを討った

858年10月7日-09:00|日本| ||天安2年8月27日|<死去>第55代「文徳天皇」32歳(誕生:天長4(827)08)皇太子惟仁親王踐祚

858年11月10日-08:00|中国| ||唐・大中12年10月|康全泰が処刑された

858年12月15日-09:00|日本| ||天安2年11月7日|<就任>摂政「藤原良房」人臣初

858年12月15日-09:00|日本| ||天安2年11月7日|<即位>第56代「清和天皇」惟仁親王

859年-03:00|エジプト| ||<即位>ジャディット朝アミール「Ibrahim ibn Muhammad」(~902年)

859年-01:00|フランス| ||<就任>オセル伯「Conrad1世」Adelaide1世と結婚(~864年死去)

859年-01:00|フランス| ||<就任>トロワ伯「Rudolph1世」(~866年)

859年-01:00|イタリア| ||<即位>スペレート公「ランベルト1世」(~871年)

859年1月2日-09:00|日本| ||天安2年11月25日|中宮職を改め皇太后宮職とする

859年1月8日-08:00|中国| ||唐・大中12年12月|毛鶴が処刑された

859年1月16日-09:00|日本| ||天安2年12月9日|十陵四墓を定める

859年2月7日-09:00|日本|愛知県蒲郡市|天安3年|真雅僧正、無量寺創建(千仏洞で有名)

859年2月7日-09:00|日本|広島県山県郡北広島町|天安3年|この頃、木造薬師如来像他11体(千代田古保利薬師堂蔵)成る

859年2月7日-08:00|中国| ||<即位>大礼(国号を南詔から改める)皇帝「世隆」(~877年)

859年2月7日-08:00|中国| ||唐・大中13年|<即位>チン王「尉遲邈」(~887年)

859年2月22日-09:00|日本| ||天安3年1月16日|<任命>鎮守府將軍「坂上当道」(~不詳)

859年3月12日-09:00|日本|京都府京都市|天安3年2月5日|右京失火、民家数10戸焼く

859年3月18日-09:00|日本|京都府京都市|天安3年2月11日|右大臣藤原良相、崇親院・延命院を建立/藤原一族の困窮者・病者を救済

859年5月6日-09:00|日本|京都府京都市左京区|貞観1年4月|藤原山蔭が一門の氏神として奈良の春日大社四座の神を勧請し吉田神社(京都府)創建

859年5月20日-09:00|日本| ||貞観1年4月15日|天安から貞観に改元

0900迄 (1424件)

859年6月2日-09:00|日本| ||貞観1年4月28日|饒益神宝を鑄造
859年9月10日-08:00|中国| ||唐・大中13年8月10日|<死去>唐第19代皇帝「宣宗李忱」(50)
859年9月13日-08:00|中国| ||唐・大中13年8月13日|<即位>唐第20代皇帝「懿宗李𡮚」(~咸通14年7月19日(873年8月15日)死去)
859年10月2日-09:00|日本|滋賀県大津市|貞観1年9月3日|僧円珍が圓城寺(三井寺)を再建
860年-08:00|インドネシア| ||スマタラ王がナランダーに仏教寺院を建設
860年-05:30|インド| ||<即位>パナラ朝国王「シュラパナラ1世」(~872年)
860年-03:00|イェメン| ||イェメンのラッシー朝を創始したイブラヒムが没
860年-02:00|トルコ| ||ルス族がコンスタンティノブルを初襲撃
860年-01:00|イタリヤ| ||<死去>スレート公「ガイ1世」
860年-01:00|フランス| ||<就任>コンフラン伯「Salomon」(~869年死去)
860年-01:00|デンマーク| ||<即位>デンマーク王「ハゲセッ」(~8710108死去)
860年-01:00|ノルウェー| ||アルプハイムをヘストフォルドが併合
860年-01:00|ノルウェー| ||ソグンがヘストフォルドに併合
860年 00:00|アイスランド| ||ノルマン人ナット、アイスランドを探検
860年1月27日-09:00|日本|東京都墨田区|貞観2年|円仁(慈覚大師)により隅田川畔(東駒形)に最勝寺建立
860年1月27日-09:00|日本|福岡県北九州市|貞観2年|大宰大式清原真人岑成、勅命により西門鎮護の要津門司の
靈峰筆立山麓の地をトして宇佐神宮の御分霊を祀り神功皇后御着用の御甲を御神霊(御神体)に奉じて甲宗八幡神社創建
860年1月27日-09:00|日本|山形県山形市|貞観2年|慈覚大師円仁、立石寺(山寺)創建<天台宗>
860年1月27日-08:00|中国/ベトナム| ||南詔・建極1年|雲南の南詔国が交州を襲い、府城を攻略
860年1月27日-08:00|中国/ベトナム| ||南詔・建極1年|南詔・世隆が建極と改元(-877)
860年1月27日-08:00|中国| ||唐・大中14年1月|浙東の人の仇甫がそむき、安南経略使の王式が浙江東道觀察使
となってこれを討った
860年3月10日-09:00|日本| ||貞観2年2月14日|<任命>鎮守府将軍「小野春枝」(~不詳)
860年4月27日-09:00|日本| ||貞観2年4月3日|<貞観2年4月3日><創建>清和天皇が岩清水八幡宮
860年8月21日-08:00|中国| ||唐・大中14年8月1日|仇甫が処刑された
860年10月2日-09:00|日本| ||貞観2年9月14日|<貞観2年平安京・畿内風水害>(~15日)平安京を流れる東西の桂
川と鴨川(賀茂川)が洪水となり、人も馬も通れなくなった/大阪湾に高潮が発生し広い地域で人や家畜に被害
が出た
860年10月9日-09:00|日本| ||貞観2年10月21日|諸国の禁野での狩猟を禁止
860年10月18日-08:00|中国| ||唐・大中14年10月|安南都護の李コが播州で勝利
860年11月24日-09:00|日本| ||貞観2年11月7日|禁野で狩をすることが禁じられる
860年12月17日-08:00|中国| ||唐・咸通1年11月2日|唐の懿宗が咸通(-874年11月)と改元
860年12月20日 00:00|イギリス| ||<死去>ウエセックス王「エセルバルド・Athelwulfes sunu」
860年12月20日 00:00|イギリス| ||Kent、エセックス、サセックスは全てウエセックスに統合
861年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||<即位>シルヴァンシャ朝国王「Haytham1世」
861年-01:00|イタリヤ| ||<死去>カプア公「ランド1世」
861年-01:00|フランス| ||<就任>アンジュー伯・オタン伯・ナント伯「ロベール豪胆公」兼ネストリア辺境伯、トゥール伯/ロベール3世・ド・ヘス
・リュとワルトランの息子(~8660702死去/45歳)
861年-01:00|イタリヤ| ||<即位>カプア公「ランド2世サイラツ」ランド1世の息子(~同年廃位)⇒「ハント・イル・ラパス」ランド2世サイ
ラツのおじ(~862年死去)
861年-01:00|イタリヤ| ||<即位>サレルノ公「ガイファ」(~880年死去)
861年-01:00|ニジェール| ||<即位>ソングイ王国国王「タコ」(~873年)
861年1月17日-08:00|中国| ||唐・咸通1年12月3日|雲南蛮が安南を寇した
861年2月14日-08:00|中国/ベトナム| ||南詔・世隆王3年;唐・咸通2年|南詔国が唐・安南都護府城を陥れる
861年3月5日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||渤海・正永4年1月20日|出雲国に渤海使李居正らが来朝
861年3月14日-09:00|韓国| ||新羅・憲安王5年1月29日|<死去>新羅王「憲安王」病死
861年3月14日-09:00|韓国| ||新羅・憲安王5年1月29日|<即位>新羅王「景文王」(~08750812死去)
861年4月27日-09:00|日本|奈良県奈良市|貞観3年3月14日|東大寺大仏修造終わる
861年5月20日-09:00|日本|福岡県直方市|貞観3年4月7日|<直方隕石>福岡の直方にある武徳神社境内に隕石が落
下(翌日深くえぐられた土中から黒く焦げた石が掘出され、桐箱に納めて保存/重量472gのL6-コンドライトの石質隕
石)
861年7月27日-09:00|日本| ||貞観3年6月16日|長慶宣明暦経を採用
861年9月8日-09:00|日本|京都府京都市|貞観3年8月|京都で赤痢流行、10歳以下の男女児多数死亡
861年9月9日-08:00|中国| ||唐・咸通2年8月|雲南蛮が邕州を寇した
861年10月8日-08:00|中国| ||唐・咸通2年9月|雲南蛮が潯州を寇した
861年10月26日-09:00|日本| ||貞観3年9月19日|<死去>桓武天皇皇女伊都内親王(平城天皇皇子阿保親王妃、在
原業平生母)
861年12月10日-03:00|イタリヤ| ||<死去>ハゲダート・アッパース朝第10代カリフ「ムタワキル」殺害される
861年12月11日-03:00|イタリヤ| ||<即位>ハゲダート・アッパース朝第11代カリフ「ムタスィル」(~08620607死去)
862年-05:30|インド| ||<即位>パナラ朝君主「Varagunavarman2世」(~880年)

0900迄 (1424件)

862年-05:30|スリランカ| |||セイロンのセナ2世がパ-ンデ-イア朝を攻略
862年-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロド公「リュリク」ノルマン人の首長/ロシア最初の国家ノヴゴロド公国建国 (~879年死去)
862年-03:30|イラン| |||<死去>ターヒル朝第4代国王「ターヒル・イブン・アフドゥッラー (ターヒル2世)」
862年-03:30|イラン| |||<即位>ターヒル朝第5代国王「ムハンマド・イブン・ターヒル」ターヒル2世の子 (~873年)
862年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ公「リュリク」建国 (~879年死去)
862年-01:00|イタリア| |||<死去>カプア公「パント・イル・ラパス」
862年-01:00|スペイン| |||<就任>アンソリウス伯「Sunyer 2世」 (~915年)、「Dela」 (~894年)
862年-01:00|フランス| |||<就任>オーベルニュ伯「Stephen」 (~863年)
862年-01:00|フランス| |||<就任>サン＝ボル伯・フランドル伯「ボートゥアン1世鉄腕伯」 (~879年死去)
862年-01:00|ベルギー/フランス| |||<就任>フランドル伯・サン＝ボル伯「ボートゥアン1世 (鉄腕伯)」 (~879年死去)
862年-01:00|フランス| |||<就任>モー伯「Louis」 (⇒8771008、フランス王)
862年-01:00|イタリア| |||<即位>カプア公「パントナルフ」パント・イル・ラパスの息子 (~863年廃位)
862年2月3日-09:00|日本|青森県むつ市|貞観4年|天台宗の僧円仁が恐山菩提寺創建
862年2月3日-09:00|日本| ||貞観4年1月1日|<頒行開始>「宣明暦」(渤海使のもたらした唐の長慶暦・大衍暦・五紀暦から改暦⇒823年間使用され誤差蓄積)す
862年3月20日-09:00|日本|京都府京都市下京区|貞観4年2月16日|藤原良縄、葛野群の別業を道場とし、真如院と号す
862年4月3日-09:00|日本|京都府京都市|貞観4年3月|朝廷が京都市中警備に保長制を導入し、京中を警備
862年4月12日-08:00|中国| ||唐・咸通3年3月10日|帰義軍節度使の張義潮が涼州で勝利
862年4月13日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「Domhnall mac Ailpin (ドナルド1世)」
862年4月13日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「Causantin mac Cinaedh (コンスタンティン1世ワイン豊穡王)」反乱側 (~877年死去)
862年6月7日-03:00|イタリ| |||<死去>バグダート・アッバース朝第11代カリフ「ムタシル」
862年6月8日-03:00|イタリ| |||<即位>バグダート・アッバース朝第12代カリフ「ムスタイン」 (~08661017、譲位サマッラーの獄に投じられムタッズにそそのかされた侍従に獄中で殺害された)
862年7月31日-08:00|中国| ||唐・咸通3年7月|徐州の武寧軍が乱を起こし、その節度使の温璋を追放
862年7月31日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||新羅・景文王2年7月|新羅・景文王:唐に対して使者を派遣して土産物を貢納
862年8月26日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|貞観4年7月27日|嘉祥寺西院を分離し貞観寺とする
862年9月28日-08:00|中国| ||唐・咸通3年9月|嶺南西道軍が乱を起こし、その節度使の蔡京を追放
862年11月-02:00|シリア・アラブ| |||シリアのヒムス住民が反乱をおこすが鎮圧される
862年11月2日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|貞観4年10月7日|伴善男、山城国紀伊郡の別業を道場とし報恩寺と号す
862年11月25日-08:00|中国| ||唐・咸通3年11月|雲南蛮が安南を寇した
862年11月30日 00:00|アイルランド| |||<死去>アイルランド上王「マエル・セクラン・マック・メイル・ルナイト」
862年11月30日 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド上王「アエド・フィンリアス・マック・ニール」 (~08791120死去)
863年-01:00|フランス| |||<就任>カルカソヌ伯「ウツリー」バルセリョ伯・ルシヨ伯 (~864年)
863年-01:00|フランス| |||<就任>トゥールーズ伯「アンフリド・ゴティ」 (~865年)
863年-01:00|フランス| |||<就任>トゥールーズ伯「スニエ2世」 (~865年)アンフリの対立伯
863年-01:00|イタリア| |||<就任>フリウリ辺境伯「ウノック (3世)」 (~874年死去)
863年-01:00|チュニジア| |||<即位>アグラブ朝「スィヤーダ・アラフ2世」 (~864年)
863年-01:00|イタリア| |||<即位>カプア公「ランダルフ2世イル・ウエスコフ」パントナルフのおじ (~866年廃位)
863年-01:00|ノルウェー| |||<即位>ハーストフォルド王「Harald Halvdansson "Harfagre"」 (~872年)
863年-01:00|イタリア| |||<廃位>カプア公「パントナルフ」
863年-01:00|フランス| |||<廃位>カルカソヌ伯・トゥールーズ伯「レモン1世」
863年-01:00|チエコ| |||モラヴィアにキュロス兄弟がキリスト教 (ギリシア正教) を伝導
863年1月23日-08:00|中国/ベトナム| ||南詔・世隆王5年;唐・咸通4年1月|南詔国が唐・安南都護府城を占領
863年1月24日-01:00|フランス| |||<死去>プロヴァンス王「シャルル (カル)」一代でプロヴァンス王家は断絶、シャルルの兄であるイタリア王ドゥイコ2世がプロヴァンス王を兼ねた
863年1月24日-01:00|フランス| |||<即位>プロヴァンス王「ルイ」(イタリア王ドゥイコ2世、ルトヴィヒ2世、フランク・ローマ皇帝ルトヴィヒ2世 ~870年、メルン条約で、プロヴァンス王位は西フランク王位に統合)
863年1月25日-09:00|日本| ||貞観5年1月3日|<死去>源定 (生年816年/皇族)
863年1月29日-08:00|中国| ||唐・咸通4年1月7日|雲南蛮が安南を陥落させ、蔡襲がここに死んだ
863年2月10日-09:00|日本| ||貞観5年1月19日|<死去>大原内親王 (生年生年未詳/皇族、伊勢斎宮)
863年2月16日-09:00|日本| ||貞観5年1月25日|<死去>源弘 (生年812年/皇族)
863年7月6日-09:00|日本| ||貞観5年6月17日|越中・越後で地震/山崩れ、谷埋まり、水湧き、民家破壊し、圧死多数/直江津付近にあった数個の小島が壊滅
863年8月18日-08:00|中国| ||唐・咸通4年7月1日|朔、日食があった
864年-05:00|ウズベキスタン/キルギス/タジキスタン| |||<死去>サマン朝 (フェルガナ) アミール「Ahmad ibn Asad」
864年-05:00|ウズベキスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>サマン朝 (サマルカント・フェルガナ) アミール「ナシル1世」 (~892. 8死去)
864年-04:00|ジョージア| |||<即位>アブハズ王「ジョージ1世」 (~871年)
864年-03:30|イラン| |||<即位>アラウイド・イマム「Hasan ibn Zayd」 (~884年)

0900迄 (1424件)

864年-02:00|ブルガリア| |||ブルガリア王国のボリス汗が授洗しキリスト教(ギリシア正教)を受容
864年-01:00|フランス| |||<死去>オセル伯「Conrad1世」
864年-01:00|クロアチア| |||<死去>クロアチア公「トルビミール1世」
864年-01:00|イタリア| |||<死去>ナポリ公「セルギウス1世」
864年-01:00|フランス| |||<就任>ウエルムント7伯「Baldwin Iron Arm」(~879年)、「Teutricius」(~886年)
864年-01:00|フランス| |||<就任>オーベルニュ伯「Bernard Plantapilosa」(~886年)
864年-01:00|フランス| |||<就任>オセル伯「ロベール豪胆公」Adelaide1世と結婚(~8660702死去)、「Conrad2世」(~876年死去)
864年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア公「ステスラフ」(1回目「トマコジ」に追放される)⇒「トマコジ」(~876年、死去)
864年-01:00|チェンジア| |||<即位>アグラフ朝「ムハンマド2世」(~875年死去)
864年-01:00|イタリア| |||<即位>ナポリ公(セルギ朝)「グレゴリー3世」(~870.3死去)
864年-01:00|ドイツ| |||<即位>ハイルン国王「カールマン」ルートヴィヒ2世の長男(~880年)
864年 00:00|モロッコ| |||<死去>モロッコ国王(イドリース朝)「ヤフヤー・イブン・ムハンマド」(ヤフヤー1世)」
864年 00:00|モロッコ| |||<即位>ネール王国スルタン「Sa'id2世」(~916年)
864年 00:00|モロッコ| |||<即位>モロッコ国王(イドリース朝)「ヤフヤー・イブン・ヤフヤー」(ヤフヤー2世)」(~874年死去)
864年2月8日-08:00|中国| ||唐・咸通4年12月27日|昭義軍が乱を起こし、その節度使の沈詢を殺した
864年2月29日-08:00|中国| ||唐・咸通5年1月19日|雲南蛮が爨州を寇した
864年3月12日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン公(リウトルフィン家)「リウトルフ」
864年3月12日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン公(リウトルフィン家)「ブルン」(~8800202)
864年4月4日-09:00|日本| ||貞観6年2月24日|<死去>慈覚大師円仁(天台宗山門派の祖)[0794年生](享年71)
864年4月10日-08:00|中国| ||唐・咸通5年3月|唐軍が南詔軍と広西の玳州で戦い、敗北
864年4月23日-09:00|日本| ||貞観6年3月14日|彗星東に見ゆ。宮室宿にあって長さ4尺ほど
864年6月21日-08:00|中国| ||唐・咸通5年5月14日|彗星が婁に出現
864年7月2日-09:00|日本| ||貞観6年5月25日|<富士山貞観の噴火>(~貞観8年)富士山噴火の勢いは甚だ激しく、1、2里四方の山を焼き尽くした/火炎は20丈の高さに及び、大音響は雷のようで、大地震が3回あった/10日以上経過しても、火の勢いは衰えず岩を焦がし峰を崩し、砂や石が雨のように降る/富士山の西北にある本栖湖に焼け石が流れ込んだ/多くの民家が溶岩流の下敷きになった/火は甲斐国との境に達した/「せの海」に溶岩が流入し、精進湖・西湖に分断される
864年9月13日-01:00|イタリア| |||<死去>ウエツィア共和国第13代トージェ(元首)「ヒートロ・トラニコ」
864年9月13日-01:00|イタリア| |||<就任>ウエツィア共和国第14代トージェ(元首)「オル・パルティバ・ツィオ1世」(~881年)
864年10月-03:30|イラン| |||<即位>アラギ朝エミール「ハサン・イブン・ザイト」建国(~8840106死去)
865年-05:30|インド| |||<即位>チャンドラ朝国王「Jayashakti」「Vi Jayashakti」(~885年)
865年-03:30|イラン| |||<即位>ジャスタニス朝国王「Khurshid of Daylam」(~同年廃位)⇒「Justan3世」(~919年)
865年-01:00|フランス| |||<死去>メヌ伯「ロコ」2世」
865年-01:00|フランス| |||<就任>カガソヌ伯「Oliba2世」Oliba1世の息子(~872年)
865年-01:00|フランス| |||<就任>トゥールーズ伯「ベルナル2世」(~877年死去)
865年-01:00|スペイン| |||<就任>ハルカテ伯・ルシオン伯「ベルナルド2世」ホウティエ伯「ベルナル」の子/ジローナ伯、ゴティア辺境伯、セプティマニア辺境伯。反乱を起こした(~8780911)
865年-01:00|フランス| |||<就任>プロワ伯「Robert」トロワ伯(~866年)
865年-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「カス・フリト」(~878年死去)
865年2月26日-09:00|日本| ||貞観7年1月27日|<任命>鎮守府将軍「文室甘楽麻呂」(~不詳)
865年5月29日-08:00|中国| ||唐・咸通6年5月|高駢が雲南蛮と玳州で戦い、これを破った
865年7月10日-09:00|日本| ||貞観7年6月14日|京畿内七道の諸人が御霊会と称し、走馬騎射するなどの行いを禁じる
865年9月 00:00|イギリス| |||<即位>ウェセックス王「アethelwulfes sunu」(~8710401死去)
865年9月 00:00|イギリス| |||秋<死去>イングランド王・ウェセックス王「アethelwulf」兼ケント王「アethelwulf3世」/約30歳
866年-08:00|中国| |||<即位>天山ウイグル王国可汗「Boko Tekin」(~871年)
866年-05:30|スリランカ| |||<即位>アヌラダプura王王国王「Sena2世」Sena1世の甥/Kassapaの息子(~901年)
866年-01:00|フランス| |||<再任>トロワ伯「ウート」1世」(~8710610死去)
866年-01:00|フランス| |||<死去>ホウティエ伯「Ranulph1世」
866年-01:00|イタリア| |||<就任>カプア公「ランベルト1世」兼スペレート侯(~871年廃位)
866年-01:00|フランス| |||<就任>ナント伯「Hugh of the Breton March」
866年-01:00|フランス| |||<就任>ホウティエ伯「Ranulph2世」Ranulph1世の息子(~8900805死去)、「Robert1世」(~9230615死去)
866年-01:00|フランス| |||<即位>アキテーヌ王(カロリング朝)「ルイ2世」西フランク王(~877年)
866年-01:00|イタリア| |||<廃位>カプア公「ランベルト2世」イル・ヴェスコフ
866年1月21日-08:00|中国| ||唐・咸通7年|高昌ウイグル王国が誕生し、高昌からチベット勢力を駆逐
866年1月25日-03:00|イラク| |||<即位>バグダード・アッバース朝第13代カリフ「ムタッス」(~8690713従兄弟に譲位そのあと5日間拷問され死亡)
866年2月19日-09:00|日本| ||貞観8年2月|<死去>文徳天皇更衣紀静子(父:紀名虎、惟喬親王・伊勢斎王恬子内親王ら生母、通称:三条町)
866年3月12日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン公「リウトルフ」

0900迄 (1424件)

866年3月12日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン公「ブルン」(~08800202死去)
866年4月19日-08:00|中国| ||唐・咸通7年閏3月|吐蕃がビ州・寧州を寇した
866年4月28日-09:00|日本|京都府京都市|貞観8年閏3月10日|応天門の変で、応天門・棲鳳楼・翔鸞楼焼亡
866年5月27日-01:00|スペイン| |||<死去>アストゥリアス王・レオン国王「オルド・ニョ1世」
866年5月27日-01:00|スペイン| |||<即位>アストゥリアス王・レオン国王「アルフォンソ3世大王」(~9101220死去、王国は3人の息子の間で分割され、ガルシア1世はレオンを、オルド・ニョ2世はガリシアを、フルエ2世はアストゥリアスをそれぞれ相続)
866年7月2日-01:00|フランス| |||<死去>アンジュー伯・オタン伯・ナント伯・オセル伯「ロベール豪胆公」45歳
866年7月2日-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯「ウード」兼西フランク国王、ネウストリア辺境伯、パリ伯/ロベール豪胆公とアデライート・ド・トゥールの息子(~8980101死去/46歳)
866年7月19日-09:00|日本| ||貞観8年6月4日|僧侶による飲酒・贈物を禁じる
866年7月31日-09:00|日本| ||貞観8年6月16日|<死去>高子内親王(生年生年未詳/皇族、賀茂斎院)
866年8月14日-09:00|日本| ||貞観8年7月|尾張・美濃の両国郡司が広野河口開削をめぐる乱闘
866年10月1日-09:00|日本| ||貞観8年8月19日|<就任>摂政「藤原良房」(~貞観14年9月2日在官のまま薨御)太政大臣/人臣摂政の始め
866年10月17日-03:00|イラク| |||<死去>バグダード・アッバース朝第12代カリフ「ムスタイン」サマッラーの獄に投じられムタツズにそそのかされた侍従に獄中で殺害された
866年11月3日-09:00|日本| ||貞観8年9月22日|応天門放火の罪により、伴善男・紀夏井らを配流(応天門の変)
866年11月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・景文王6年10月|允興がその弟の叔興・季興とともに反逆を謀った/事前に発覚して允興らは岱山郡に逃走したが捕縛されて斬刑
866年11月21日 00:00|イギリス| |||デーン人がヨークを占領、ノサンブリアを統治(~883年)
866年12月 00:00|イギリス| |||<即位>ノサンブリア王「Alle」反乱側(~08670321死去)
866年12月18日-09:00|日本|愛媛県|貞観8年11月8日|<発足>宇和郡北部が分立し喜多郡成立
867年-03:30|イラン| |||<死去>パハント朝太守「Qarin1世」
867年-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<即位>サッファール朝アミール「ヤクブ・イブン・アル・ライス・アル・サッファール」建国(~08790605死去)
867年-03:30|イラン| |||<即位>パハント朝太守「Rustam1世」(~896年死去)
867年-02:00|エジプト| |||<就任>アッバース朝エジプト第76代アミール「ムザヒム・イブン・カン」(~868)
867年-01:00|スペイン| |||<就任>アラゴン伯「アスナル・ガリンド2世」ガリンド・アスナル1世の息子(~893年)
867年 00:00|チャル諸島/フランス| |||ジャージー島、ガーンジー島、オルタニー島はコタン半島(フランス国内)とともにブルターニュ公国の一部(~933年)
867年2月25日-09:00|日本| ||貞観9年1月17日|<死去>桓武天皇皇子仲野親王(76)
867年3月3日-09:00|日本| ||貞観9年1月23日|彗星、紫微宮に見ゆ。内階を貫き長さ5尺
867年3月21日 00:00|イギリス| |||<死去>ノサンブリア王「Alle2世」反乱側
867年3月21日 00:00|イギリス| |||<即位>ノサンブリア王「Ecgerht1世」反乱側(~872年)
867年6月24日-09:00|日本| ||貞観9年5月19日|<死去>平高棟(生年804年/賜姓皇族)
867年8月11日-08:00|中国| ||唐・咸通8年7月8日|懷州の民が乱を起こし、その刺史の劉仁規を追放
867年9月23日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ帝国皇帝(アモリア朝)「ミカエル3世メソイヌ(飲んだくれ・酔っ払い・酩酊帝)」共同皇帝バシレイヌ1世によって暗殺される
867年9月23日-02:00|トルコ/セルビア| |||<即位>東ローマ帝国皇帝(マケドニア朝)「バシレイヌ1世」アルメニア系農民の子(~08860829死去)皇帝の叔父で副帝のバルタスとの衝突を引き起こしたため計略をめぐらして暗殺、その後、共同皇帝の地位を与えられるが皇帝と衝突し、皇帝を暗殺して単独皇帝となった
867年11月-03:00|イラク| |||<死去>タール朝(バグダード政権)国王「Muhammad ibn Abdallah ibn Tahir」
867年11月-03:00|イラク| |||<即位>タール朝(バグダード政権)国王「Ubaydallah ibn Abdallah」(~869年)
867年11月13日-01:00|バチカン| |||<死去>第105代ローマ教皇「ニコラウス1世」
867年12月14日-01:00|バチカン| |||<就任>第106代ローマ教皇「ハドリアヌス2世」(~08721214死去)
868年-02:00|エジプト| |||<就任>アッバース朝エジプト第77代アミール「アフマド・イブン・ムザヒム・イブン・カン」(~同年死去)→第78代アミール「アブ・アッ・アッラキ」(~同年解任)
868年-01:00|スペイン| |||<就任>アル伯「Boso1世」(~879年)
868年-01:00|フランス| |||<就任>オタン伯「ヘルナル子牛伯」シルデブラン3世の子(~872年)
868年-01:00|チュニジア/マルタ| |||チュニジアのアグラフ朝軍がマルタ島を占領
868年-01:00|デンマーク/イギリス| |||デーン人がイースト・アングリア(イングランド東部)を占領
868年 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガール伯「ウイラ・ペレス」(~873年死去)
868年 00:00|ポルトガル/スペイン| |||<設置>ポルトガル郡、ガリシア・レオン内
868年1月29日-09:00|日本| ||貞観10年|惟宗良繩、「令集解」(養老令の注釈書)を作る
868年1月29日-08:00|中国| ||唐・咸通9年|中国で金剛般若経が印刷される(現存する最古の印刷物)
868年1月29日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・景文王8年1月|金鋭・金鉉らが反乱を起こして誅殺
868年2月13日-09:00|日本| ||貞観10年1月16日|<任命>鎮守府将軍「御春岑能」(~不詳)
868年7月23日-08:00|中国| ||唐・咸通9年7月|武寧軍節度糧料判官の杓助が桂州でそむいた
868年7月30日-09:00|日本| ||貞観10年7月8日|<貞観10年播磨地震>播磨国の国府附近を震央とするマグニチュード7クラスの強い地震/播磨国内諸郡の官舎や定額寺(奈良、平安時代に国の財政的保護を受け国分寺などに次ぐ格のあった寺)の堂塔がことごとく崩壊/京都では家屋の被害
868年9月15日-02:00|エジプト| |||<即位>トゥール朝アミール「アフマド・ブン・トゥールン」建国(~08840510死去)
868年10月3日-09:00|日本| ||貞観10年9月14日|<死去>文徳天皇皇子惟条親王(23/母:更衣紀静子、同母兄:惟喬

0900迄 (1424件)

親王)

868年10月29日-08:00|中国| ||唐・咸通9年10月10日|杓助が宿州を陥落させた
868年11月5日-08:00|中国| ||唐・咸通9年10月17日|杓助が徐州を陥落させ、観察使の崔彦曾がここに死んだ
868年11月18日-08:00|中国| ||唐・咸通9年11月|杓助が濠州を陥落させ、刺史の盧望回がここに死んだ
868年12月18日-08:00|中国| ||唐・咸通9年12月|杓助がが和・シヨの二州を陥落させ、シヨ州刺史の高錫望がここに死んだ
868年12月30日-08:00|中国| ||唐・咸通9年12月13日|戴可師が杓助と都梁山で戦い、ここに死んだ
869年-04:00|ロシア| |||<建国>デルベント首長国(~1075年)
869年-03:00|イラク| |||<即位>ターヒル朝(バグダート政権)国王「Sulayman ibn Abdallah」(~879年死去)
869年-01:00|フランス| |||<死去>コンフラン伯「Salomon」
869年-01:00|フランス| |||<就任>メコン伯「Theodoric of Vergy」(~883年死去)
869年 06:00|グアテマラ| |||<即位>ティカル王「ハサ・チャン・カウィル2世」(~889年)
869年2月5日-09:00|日本| ||貞観10年閏12月20日|新定内外官交替式を施行
869年2月15日-08:00|中国/ベトナム| ||南詔・法堯1年|南詔が法堯と改元
869年2月15日-08:00|中国| ||南詔・世隆王11年;唐・咸通10年|南詔軍が四川各地に侵入
869年5月15日-08:00|中国| ||唐・咸通10年4月|康承訓が杓助と柳子で戦い、これを破った
869年5月27日-09:00|日本| ||貞観11年4月13日|藤原氏宗ら「貞観格十二巻」を撰上
869年6月27日-09:00|日本| ||貞観11年5月14日|<死去>常康親王(生年生年未詳/皇族)
869年7月5日-09:00|日本/韓国| ||貞観11年5月22日|新羅海賊、博多津の豊前国貢調船を略奪する(貞観の韓寇)
869年7月9日 11:00|日本| ||貞観11年5月26日|<貞観三陸地震>夜、三陸沿岸部をマグニチュード8.3という巨大地震が襲った/ある者は、家屋が倒壊して圧死し、ある者は、大地が裂けて生き埋めになった/多賀城の城郭、倉庫、門、櫓、垣や壁などは崩れ落ちたり覆ったりしたが、その数は数え切れないほど/荒れ狂い湧き返る大波は、河を遡り膨張して、忽ち城下に達した/原や野や道路は、すべて蒼々とした海に覆われてしまった/溺死する者も1000人ほどいた
869年7月13日-03:00|イラク| |||<退位>バグダート・アッバース朝第13代カリフ「ムタッス」従兄弟に譲位(~そのあと5日間拷問され死亡)
869年7月13日-09:00|日本| ||貞観11年6月|新羅の海賊が艦二艘に乗り筑前国那珂郡(博多)の荒津に上陸し、豊前の貢調船を襲撃し、年貢の絹綿を掠奪し逃げた
869年7月21日-03:00|イラク| |||<即位>バグダート・アッバース朝第14代カリフ「ムタッサー」(~08700621死去)
869年7月26日-09:00|日本|京都府京都市|貞観11年6月14日|疫病の災厄除去を祈って祇園御霊会(祇園祭りの起源)始まる(八坂神社)
869年8月8日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>ロランギア王「ロタル2世」
869年8月8日-01:00|フランス/ベルギー-ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<即位>ロランギア王「シャルル禿頭王」(~08771006)
869年8月12日-09:00|韓国/中国| ||新羅・景文王9年7月|新羅・景文王:王子の金胤らを唐に派遣
869年8月25日-09:00|日本|熊本県|貞観11年7月14日|肥後国大風雨/潮水漲溢、漂没六郡
869年9月10日-03:00|イラク| |||ザンジュの乱/イラン出身のアリー・ブン・ムハマトが、ザンジュ(黒人奴隷)を煽動してアッバース朝への反乱を起こす
869年9月10日-08:00|中国| ||唐・咸通10年8月|彗星が大陵に出た
869年9月23日-09:00|日本| ||貞観11年8月14日|太政大臣藤原良房ら「続日本後紀二十巻」を撰上
869年10月15日-09:00|日本| ||貞観11年9月7日|<施行>「貞観格十二巻」(4月13日、藤原氏宗らが奏進)
869年11月20日 00:00|イギリス| |||<死去>イーストアングリア王「エドマント 殉教王」グアイキングに殺される(生年841年)
869年11月20日 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Oswald」(~875年)
870年-05:30|インド| |||<即位>チョーラ朝国王「Aditya Chola1世」(~907年死去)
870年-01:00|アントラスペイン| |||<死去>ウルジェイ伯・サルターニャ伯「Solomon」
870年-01:00|スペイン| |||<死去>ナバラ王・パンプローナ王「ガルシア・イレウス」
870年-01:00|アントラスペイン| |||<就任>ウルジェイ伯・サルターニャ伯「Wilfred1世毛深伯」ハルセパ伯(~8970811死去)
870年-01:00|オランダ| |||<就任>エノ伯「レニ1世」(~898年)
870年-01:00|フランス| |||<就任>コンフラン伯「Miro1世」(~896年死去)
870年-01:00|チェコ/スロバキア/ハンガリー| |||<即位>大モラヴィア公(モミール朝)モラヴィア公「エンゲルサルク」(~871年)
870年-01:00|チェコ/スロバキア/ハンガリー| |||<廃位>大モラヴィア公(モミール朝)「ロスチスラフ」
870年 00:00|イギリス| |||ストラクライトは北欧が統治
870年 07:00|メキシコ| |||ティカルなど古典期マヤ文明がこのころ謎の消滅
870年1月9日-09:00|日本|滋賀県|貞観11年12月4日|近江国の勢田橋が焼ける
870年2月3日-08:00|中国| ||唐・咸通10年12月29日|雲南蛮が嘉州を寇した
870年2月5日-08:00|中国| ||唐・咸通11年|高昌ウイグル王国が甘肅から肅州へ勢力を拡張
870年2月5日-08:00|中国| ||南詔・世隆王12年;唐・咸通11年1月|南詔軍が四川の成都を包圍
870年2月5日-08:00|中国| ||唐・咸通11年1月1日|雲南蛮が黎・雅の二州、および成都を寇した
870年3月-01:00|イタリア| |||<死去>ホリ公(セルギ朝)「グレゴリ-3世」
870年3月-01:00|イタリア| |||<即位>ホリ公(セルギ朝)「セルギウス2世」(~877年廃位)
870年3月1日-09:00|日本| ||貞観12年1月25日|貞観永宝を鑄造
870年3月7日-08:00|中国| ||唐・咸通11年2月2日|劍南西川節度副使の王建立が雲南蛮と城北で戦い、ここに死んだ

0900迄 (1424件)

870年3月17日-08:00|中国| ||唐・咸通11年2月12日|劍南東川節度使の顔慶復が雲南蛮と新都で戦い、これを破った

870年5月9日-09:00|日本| ||貞観12年4月5日|長門国の馬を国外に出す事を禁じる

870年6月21日-03:00|イラク| ||<死去>バグダート・アッバース朝第14代カリフ「ムタディーン」

870年6月21日-03:00|イラク| ||<即位>バグダート・アッバース朝第15代カリフ「ムタミド」(~08921014バグダートで病死)

870年8月8日-01:00|フランス/ドイツ/イタリア| ||メルセン条約で中部フランク王国の旧領の北部は東フランク王国(国王ルトヴィヒ2世)、西フランク王国(国王シャルル2世)に併合されて、東フランク王ルトヴィヒ2世がロタリンギア王位を、西フランク王シャルル2世がプロヴァンス王位を獲得

870年8月29日-01:00|マルタ| ||マルタはイスラム教アラブの支配下

870年8月31日-08:00|中国| ||唐・咸通11年8月|魏博軍が乱を起こし、その節度使の何全?を殺し、その将の韓君雄が留後を自称

870年12月13日-09:00|日本| ||貞観12年11月17日|大宰少貳藤原元利万侶、新羅への通牒の罪で逮捕

870年12月27日-09:00|日本|千葉県|貞観12年12月2日|上総国で俘囚叛乱

871年-04:00|ジョージア| ||<即位>アブハズ王「ジョン・シャブリアン」(~873年)

871年-03:00|イラク| ||ザンジュの反乱軍がバスラを陥れる

871年-01:00|イタリア| ||<就任>フランク王国スレート公「スッポ」2世(~876年)

871年-01:00|チェコ/スロバキア/ハンガリー| ||<即位>モラヴィア王(モミール朝)「スヴァトプルク1世」ロズスラフの甥。ニトラ公。ロズスラフに対して反乱を起こして国権を掌握(~894年3月死去)

871年-01:00|イタリア| ||<廃位>カファ公「ランベルト1世」兼スレート候

871年-01:00|イタリア| ||<復位>カファ公「ランベルト2世」イル・ヴェスコフォ(~879年死去)

871年1月8日-01:00|デンマーク| ||<死去>デンマーク王「ハゲセッ」

871年1月8日-01:00|デンマーク| ||<即位>デンマーク王「ハルフトン」(~877年死去)

871年1月21日-09:00|日本| ||貞観12年12月27日|彈正台の巡回制度を旧に復す

871年1月25日-08:00|中国| ||唐・咸通12年|<死去>渤海国王「安王大虔晃」

871年1月25日-08:00|中国| ||唐・咸通12年|<即位>渤海国王「景王大玄錫」(~乾寧2年(895年)死去)

871年4月1日 00:00|イギリス| ||<死去>ウェセックス王「エセルレッド」・Athelwulfes sunu 約34歳

871年4月1日 00:00|イギリス| ||<即位>サクソン王「Alfred Athelwulfes sunu(アルフレッド 大王)」(⇒881年アングロサクソン王~08991026死去)

871年5月1日-09:00|日本| ||貞観13年4月8日|出羽国鳥海山噴火

871年6月10日-01:00|フランス| ||<死去>トワ伯・シャータン伯「ウード」1世

871年6月10日-01:00|フランス| ||<就任>トワ伯「ウード」2世(~876年)兼シャータン伯(~886年)

871年9月24日 11:00|日本|京都府京都市|貞観13年閏8月7日|<貞観13年平安京大洪水>平安京には大雨が続き、雷を伴った大雨が降り、河川が氾濫して橋を流し庶民の家が数がわからないほど壊れた

871年9月28日 11:00|日本| ||貞観13年閏8月11日|<貞観13年平安京大洪水>ふたたび河川が氾濫、東の京(朱雀大路の東側・左京)で35家138人が、西の京(同西側・右京)では630家3995人が「遭水損者」となった/合計665家の4133人が被災

871年11月14日 11:00|日本| ||貞観13年9月28日|<死去>仁明天皇太皇太后藤原順子(63/父:藤原冬嗣、文徳天皇生母、通称:五条后)

871年11月23日 11:00|日本| ||貞観13年10月8日|<死去>桓武天皇皇子賀陽親王(78/母:夫人多治比真宗)

871年12月6日-09:00|日本| ||貞観13年10月21日|応天門再建

871年12月7日-09:00|日本| ||貞観13年10月22日|<施行>「貞観式」(清和天皇が藤原氏宗に編纂させ、8月25日、奏進)

872年-05:30|インド| ||<即位>パラ朝国王「ウイグラーハ」1世(~873年)

872年-03:00|エジプト| ||<即位>ユフィス王「Muhammad bin Yu'fir」(~892年)

872年-02:00|エジプト| ||カイロで最初の病院が建設される

872年-01:00|フランス| ||<就任>カルカソヌ伯「ベルナルド」2世「ベルナルド」1世の息子。パルティ伯⇒<復位>カルカソヌ伯「Oliba」2世(~877年)

872年-01:00|スペイン| ||<就任>リベゴルサ伯「Raymond」1世(~920年死去)

872年-01:00|ルウェー| ||<即位>ルウェー王国国王「ハラル」1世(美髪王)(~930年)

872年-01:00|チェコ| ||<即位>ボヘミア公「ボジウオ」1世(~883年)

872年-01:00|アルジェリア| ||<即位>ルスラム朝イマム「アブー・バクル」アブー・サイード・アッラフの子(~874年)

872年-01:00|フランス| ||<復位>オータン伯「ベルナルド」2世(~873年)

872年 00:00|イギリス| ||<死去>ストラスカイト王「Artgal」

872年 00:00|イギリス| ||<即位>ストラスカイト王「Run」(~878年死去)

872年 00:00|イギリス| ||<即位>セイサルク王「アングラッド」・トリ大王(~878年)

872年 00:00|イギリス| ||<即位>ノーザンブリタ王「Ricsige」反乱側(~876年死去)

872年1月14日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||渤海・正永14年12月|渤海使楊成規ら105人が加賀国に到着

872年2月13日-08:00|中国| ||渤海・寛明1年|渤海の大玄錫が寛明(-893年)と改元

872年2月13日 11:00|日本|京都府京都市|貞観14年1月|京都で咳病(咳逆病)流行、死者多数

872年6月14日 11:00|日本| ||貞観14年5月5日|<死去>人康親王(生年831年/皇族)

872年6月23日 16:30|イラン| ||イランで地震(M6.8)死者2万人

872年10月7日-09:00|日本| ||貞観14年9月2日|<死去>太政大臣藤原良房(69)

0900迄 (1424件)

872年12月14日-01:00|バチカン| |||<死去>第106代ローマ教皇「ハドリアヌス2世」
872年12月14日-01:00|バチカン| |||<就任>第107代ローマ教皇「ヨハネス8世」(~08821216死去)
873年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ナガ・トウリヤ」(~904年)
873年-05:30|インド| |||<即位>パラ朝国王「ナラヤナハラ」(~927年)
873年-03:30|イラン| |||サッファール朝ヤクブがターヒル朝を滅ぼす
873年-01:00|フランス| |||<就任>オータン伯「エシャル」シルベラン3世の子(~876年死去)
873年-01:00|ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「アコイ」(~885年)
873年-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王「シフレス」(~891年)
873年 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル伯「ウイマラ・ペレス」
873年 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル伯「ルデ・イ・ウイマラネス」(~922年死去)
873年1月1日-09:00|日本| ||貞観14年11月29日<就任>摂政「藤原基経」
873年1月15日-09:00|日本| ||貞観14年12月13日|十陵四墓に藤原良房の愛宕墓を加え、十陵五墓とする
873年2月1日-08:00|中国| ||唐・咸通14年1月|沙陀が代北を寇した
873年2月24日-09:00|日本| ||貞観15年1月23日|騎馬での山崎橋の往来を禁止
873年5月20日-09:00|日本| ||貞観15年4月20日|多数の皇子や皇女に源姓を与える
873年5月30日-09:00|日本| ||貞観15年5月1日<死去>仁明天皇皇子人康親王(54/母:女御藤原沢子、光孝天皇同母弟)
873年7月28日-09:00|日本| ||貞観15年7月1日|日蝕あり、光無し
873年8月1日-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリンゲン公「シャクル」
873年8月15日-08:00|中国| ||唐・咸通14年7月19日<死去>唐第20代皇帝「懿宗李サ」咸寧殿で崩じた(41)
873年8月16日-08:00|中国| ||唐・咸通14年7月20日<即位>唐第21代皇帝「僖宗李ケン」(~文徳元年3月6日888年4月20日)死去)
873年11月2日-09:00|日本| ||貞観15年10月9日|左右坊城使を復す
873年11月5日-01:00|スペイン| |||<死去>カスティリャ伯「ロドリゴ」
873年11月5日-01:00|スペイン| |||<就任>カスティリャ伯「Diego Rodriguez Porcelos」(~885年死去)
873年11月26日-09:00|日本| ||貞観15年11月3日|太政官庁完成
874年-03:30|イラン| |||<即位>デュラフ王朝国王「Dulaf ibn Abd al-Aziz」(~879年)
874年-01:00|イタリヤ| |||<死去>フリウリ辺境伯「ウノック(3世)」
874年-01:00|フランス| |||<死去>ブルターニュ公「サロモン(サラク)」義理の息子であるウアンヌ伯「ハスク」エテン並びにエリス・エの義理の息子であるゲルヴァントの一派によって暗殺された
874年-01:00|イタリヤ| |||<就任>フリウリ辺境伯「ベレンガリオ1世」(~890年)
874年-01:00|ドイツ| |||<即位>テューリンゲン公「ラドルフ2世」(~880年死去)
874年-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公(南ブルターニュ)「ハスクイタン(ハスク)エテン」ウアンヌ伯(~876年死去)
874年-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公(北ブルターニュ)「ゲルヴァント」(~876年死去)
874年-01:00|アルジェリア| |||<即位>ムスリム朝イマム「アブー・アル・ヤクザーン・ムハンマド」アブー・サイード・アッラフの子(~894年)
874年-01:00|フランス| |||<即位>レンヌ伯「Gurwant」兼レンヌ公
874年 00:00|モロッコ| |||<死去>モロッコ国王(イドリス朝)「ヤフヤー・イブン・ヤフヤー(ヤフヤー2世)」
874年 00:00|イギリス| |||<即位>グウェント王「Ffernfael ap Meurig」(~880年)
874年 00:00|イギリス| |||<即位>マーシア王「チオルルフ2世」(~881年死去)
874年 00:00|モロッコ| |||<即位>モロッコ国王(イドリス朝)「アリー・イブン・ウマル(アリー2世)」(~883年死去)
874年 00:00|アイスランド| |||ノルマン人「アイケンゲ」がアイスランドへ多量移住を開始
874年1月4日-08:00|中国| ||唐・咸通14年12月12日|雲南蛮が黎州を寇した
874年3月25日 11:00|日本| ||貞観16年3月4日|開聞岳噴火、山頂火口に溶岩ドームを形成/降灰で作物が枯れ川は濁り、病死者多数
874年5月8日-09:00|日本|京都府京都市|貞観16年4月19日|淳和院で火災
874年6月18日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・景文王14年5月|近宗が反乱を起こして宮中まで至り王は近衛兵を派遣して撃破
874年8月3日-09:00|日本| ||貞観16年6月18日|理源大師聖宝、笠取山に准胝・如意輪観音を安置し醍醐寺創建(京都府京都市)<真言宗醍醐派大本山>
874年10月8日-09:00|日本|京都府|貞観16年8月24日<貞観16年京都暴風雨、大洪水>暴風雨によって鴨川、高瀬川、桂川などが決壊し、京都の中心街から淀川中流の與度(淀)の渡し、山崎あたりまで大洪水になった/大風雨によって、木は折られ、家屋は倒壊した/宮中の紫宸殿の前にある桜から東宮の紅梅、侍従局の大梨など名のある樹木はすべて吹き倒された/内裏、大内裏内外の官舎、人民の住居で倒潰を免れたものはほとんどない/京都の街を襲った7、8尺の深さの大洪水の水流の勢いは非常に激しく、直ちに街中を襲い、大小の橋梁で完全なものはない/東西に流れる河川からあふれた水は、はてしなく広く広がり、人々や牛馬の溺れて死亡したものは、その数を数えられないほどだ/與度(淀)の渡し口の周辺30余軒、山崎(山崎)橋の南にある40余軒などが流され、住民が家屋の中に居るままだよい流されたのが非常に多い/流れていく家屋が橋の柱にぶつくと家は壊れ、人は沈んだ
874年12月17日-08:00|中国| ||唐・乾符1年11月5日|唐・僖宗が乾符(-879年11月)と改元
875年-05:00|ウズベキスタン/イラン| |||<即位>サーマン朝7ミール「ナスル1世」建国(~892.8死去)
875年-01:00|チュニジア| |||<即位>アガラフ朝「イブラヒム2世」(~9021023死去)
875年-01:00|ルウェー| |||オーケー諸島とシトラント諸島はルウェーの下(~14720220)

0900迄 (1424件)

875年 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Athelraed2世」(~878年)
875年1月11日-08:00|中国| ||唐・乾符1年12月|党項・回鶻が天德軍を寇した/雲南蛮が黎・雅の二州を寇し、河西・河東・山南東道・東川の兵が雲南を討伐
875年3月9日-09:00|日本|京都府京都市|貞観17年1月28日|冷然院火災/五十四宇を焼失した他、図籍文書が灰燼に帰す
875年5月9日-09:00|日本| ||貞観17年4月|<撰進>「左右検非違使式」(検非違使の規定)
875年6月5日-09:00|日本| ||貞観17年4月28日|卯刻、白彗東北に現る。赤色をし芒角をなす
875年6月5日-08:00|中国| ||唐・乾符2年4月28日|浙西突陣の将の王郢がそむいた
875年6月8日-09:00|日本| ||貞観17年5月2日|彗星、長さ丈余
875年6月16日-09:00|日本| ||貞観17年5月10日|下総国で俘囚が叛乱/常陸・上総・武蔵・下野諸国に命じ、鎮圧させる
875年7月7日-08:00|中国| ||唐・乾符2年6月|幽州の将の李茂勲がその節度使の張公素を追放し、留後を自称
875年7月7日-08:00|中国| ||唐・乾符2年6月|濮州の賊の王仙芝・尚君長が曹・濮の二州を陥落させ、河南諸鎮の兵がこれを討った/私塩商人の黄巢が王仙芝の反乱に呼応(黄巢の乱)
875年7月25日-09:00|日本| ||貞観17年6月19日|下野国が下総国に出兵し、反乱した俘囚89人を殺害または捕獲
875年8月9日-09:00|日本| ||貞観17年7月05日|下野国が下総国に出兵し、賊徒27人を討殺し4人が投降
875年8月12日-01:00|ドイツ/オーストリア/フランス/イタリア| |||<死去>フランク・ローマ帝国皇帝・イタリア王「ロトゥィグ2世」72歳(誕生804年)東フランクはドイツ人王ルートヴィヒ2世の3人の子によって分割相続
875年8月12日-01:00|イタリア| |||イタリア王国は西フランク王シャルル2世によって併合(~8771001)
875年8月12日-09:00|韓国| ||新羅・景文王15年7月8日|<死去>新羅王「景文王」
875年8月12日-09:00|韓国| ||新羅・景文王15年7月8日|<即位>新羅王「憲康王」(~8860808死去)
875年8月28日-01:00|ドイツ/オーストリア/フランス/イタリア| |||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝「カル2世禿頭王」西フランク王(~8771006死去)
875年12月29日-01:00|イタリア| |||<即位>フランク・ローマ皇帝・イタリア王「禿頭王カル2世」西フランク王シャルル2世(カル2世)。ロタリオ1世の弟(~8771006死去)
876年-04:00|ジョージア| |||<死去>イギリス公「ハグランド1世」
876年-04:00|ジョージア| |||<就任>イギリス公「ダウイット1世」(~881年死去)
876年-01:00|フランス| |||<死去>オタン伯「エシヤル」
876年-01:00|フランス| |||<死去>セーデル伯「Conrad2世」
876年-01:00|クロアチア| |||<死去>クロアチア公「ドマコジ」
876年-01:00|フランス| |||<死去>ブルターニュ公(南ブルターニュ)「ハースクイタン(ハスクウィテン)」
876年-01:00|フランス| |||<死去>ブルターニュ公(北ブルターニュ)「ゲルヴァント」
876年-01:00|フランス| |||<死去>レンヌ公・レンヌ伯「Gurwant」
876年-01:00|フランス| |||<就任>オタン伯「ヘルナルト・ゴティエ」ゴティエ辺境伯(~878年)
876年-01:00|フランス| |||<就任>セーデル伯「Hugh the Abbot」(~8860512死去)
876年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア公「イリコ」ドマコジの息子(~878年)
876年-01:00|フランス| |||<就任>トロワ伯「Robert1世」(~886年)
876年-01:00|フランス| |||<就任>レンヌ伯「Judicael」(~888年死去)
876年-01:00|イタリア| |||<即位>スレート公「ランベルト1世」(~880年死去)
876年-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公(南ブルターニュ)「アラン1世大アラン」(~888年全ブルターニュ王-907年死去)
876年-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公(北ブルターニュ)「ユディカール」(~888年死去)
876年-01:00|クロアチア/トルコ| |||フィウメは名目上、東ローマ(ビザンチン)帝国の一部
876年 00:00|イギリス| |||<死去>ノーザンブリア王「Ricsige」反乱側
876年 00:00|イギリス| |||<即位>ノーザンブリア王「Ecgbert」反乱側(~878年死去)
876年1月30日-09:00|日本| ||貞観18年|<任命>鎮守府将軍「安倍比高」(~元慶2(878)年6月9日)
876年3月24日-09:00|日本| ||貞観18年2月25日|<創建>大覚寺[真言宗大覚寺派大本山]淳和天皇太皇太后正子内親王の請により嵯峨院を
876年5月7日-09:00|日本|京都府京都市|貞観18年4月10日|大極殿・小安殿・延休殿などが炎上
876年7月12日-09:00|日本| ||貞観18年6月18日|<死去>仁明天皇皇女久子内親王(母:高宗女王、第29代伊勢斎王)
876年7月25日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||新羅・憲康王2年7月|新羅・憲康王:唐に対して使者を送って貢納
876年7月30日-08:00|中国| ||新羅・憲康王2年7月6日|鎮海軍節度使の裴沔が王郢と戦い、これを破った
876年8月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>東フランク王「ルートヴィヒ2世」
876年8月28日-01:00|ドイツ| |||<即位>東フランク王・バイエルン王「カルマン」(⇒8771006、イタリア王を兼任~8800322);シュヴァーベン、アルミア及びバヴァリアの王「カル3世肥満王」(8800322、イタリア王を兼任⇒8810212西ローマ皇帝⇒8820120、東部王国全体を統治~8871111廃位);ザクセン・フランク及びテューリゲン王「ルートヴィヒ3世若年王」(8800322バイエルンも統治~8820120死去)
876年9月22日-08:00|中国| ||唐・乾符3年9月1日|朔、日食があった
876年9月23日-08:00|中国| ||唐・乾符3年9月2日|王仙芝が汝州を陥落させ、刺史の王鐔を捕らえた
876年11月20日-08:00|中国| ||唐・乾符3年11月|王仙芝が郢・復の二州を陥落させた
876年12月18日-09:00|日本| ||貞観18年11月29日|<受禪>貞明親王(皇太子)貞観19年1月3日(8770120)57代陽成天皇として即位

0900迄 (1424件)

876年12月18日-09:00|日本| ||貞観18年11月29日|<就任>摂政「藤原基経」(~元慶8年2月4日)太政大臣
876年12月18日-09:00|日本| ||貞観18年11月29日|<譲位>第56代清和天皇
876年12月20日-09:00|日本| ||渤海・寛明5年12月|渤海使楊中遠ら105人が出雲国に到着/違期を理由に入京を拒否され翌年6月帰国
876年12月20日-08:00|中国| ||唐・乾符3年12月|王仙芝が申・光・廬・寿・通・舒の六州を陥落させた
877年-07:00|カンボジア| ||<死去>クメール王朝国王「ジヤ・ウ・アルマン3世(チェイ・アルマン3世)」
877年-07:00|カンボジア| ||<即位>クメール王朝国王「インド・ウ・アルマン1世」(~889年)ハリハヤを王都とする
877年-07:00|ベトナム| ||ホアン・オン王国はチャン・タンになる
877年-05:45|ネパール| ||<死去>ネパール王国リッチャウ・イ王朝「マナ・デー・ウ・ア3世」
877年-05:45|ネパール| ||<即位>リッチャウ・イ王朝「Manadeva4世」
877年-02:00|シリア・アラブ| ||トウルーン朝のアフマド・ガシリアを平定
877年-01:00|デンマーク| ||<死去>デンマーク王「ハルフトン」
877年-01:00|フランス| ||<死去>トウルーズ伯「ヘルナル2世」
877年-01:00|フランス| ||<死去>メコン伯「Ecchard of Macon」
877年-01:00|フランス| ||<就任>アカソヌ伯「Acfred1世」Oliba1世の息子(~906年死去)
877年-01:00|フランス| ||<就任>トウルーズ伯「ヘルナル3世」ヘルナル・ド・セ・ティマニーの子(~886年)
877年-01:00|フランス| ||<就任>パリ伯(シエール家)アタール[西フランク王ルイ2世の舅](877年)
877年-01:00|フランス| ||<就任>メコン伯「Boso of Provence」(~887/111死去)
877年-01:00|イタリア| ||<廃位>サリ公(セルギ朝)「セルギウス2世」
877年 00:00|イギリス| ||<死去>スコットランド王「Causantin mac Cinaedh(コンスタンティン1世ワイン豊穡王)」反乱側
877年 00:00|イギリス| ||<即位>スコットランド王「Aedh mac Cinaedh」(~878年死去)
877年1月18日-08:00|中国| ||唐・乾符4年|<死去>大礼皇帝「世隆」
877年1月18日-08:00|中国| ||唐・乾符4年|<即位>大封民皇帝「隆舜」(~897年)
877年2月17日-08:00|中国| ||唐・乾符4年2月|王仙芝が鄂州を陥落させた
877年3月19日-08:00|中国| ||唐・乾符4年閏2月|昭義軍が乱を起こし、その節度使の高湜を追放
877年4月17日-08:00|中国| ||唐・乾符4年3月|宛句の賊の黄巢がウ・沂の二州を陥落させ、天平軍節度使の薛崇がここに死んだ
877年5月17日-08:00|中国| ||唐・乾符4年4月|この月、陝州軍が乱を起こし、その観察使の崔碣を追放/江西の賊の柳彦璋が江州を陥落させ、その刺史の陶祥を捕らえた
877年5月17日-08:00|中国| ||唐・乾符4年4月|高安制置使の鍾伝が撫州を陥落させた
877年5月17日-08:00|中国/日本| ||貞観19年;唐・乾符4年4月1日|朔、日食があった
877年6月1日-09:00|日本| ||元慶1年4月16日|貞観から元慶に改元
877年6月9日-09:00|日本| ||元慶1年4月24日|<死去>文徳天皇皇女珍子内親王(母:紀静子)
877年9月11日-08:00|中国| ||唐・乾符4年8月|黄巢が隋州を陥落させ、刺史の崔休徴を捕らえた
877年10月6日-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ/イタリア| ||<死去>西フランク王・イタリア王・ロランギア王「シャルル2世禿頭王」54歳(誕生08230613)
877年10月6日-01:00|フランス| ||<就任>モー伯「Theodebert」(~888年死去)
877年10月6日-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<即位>西フランク王・フランク王・ロランギア王「ルイ2世吃音王」シャルル2世の子(~08790410死去)
877年10月6日-01:00|イタリア/ドイツ| ||<即位>イタリア国王「カロマン」東フランク王(~879年11月)
877年10月6日-01:00|フランス| ||<退任>モー伯「Louis」
877年10月11日-08:00|中国| ||唐・乾符4年9月|塩州の軍が乱を起こし、その刺史の王承顔を追放
877年10月11日-08:00|中国| ||唐・乾符4年9月|沙陀が雲・朔二州を寇した
877年11月9日-08:00|中国| ||唐・乾符4年10月|河中軍が乱を起こし、その節度使の劉侔を追放
877年12月-01:00|イタリア| ||<即位>イタリア国王「フリウ辺境伯ベレンガー」(1回目~879年11月)
877年12月9日-08:00|中国| ||唐・乾符4年11月|尚君長が降り、宋威がこれを殺した
878年-05:30|インド| ||<即位>ラシュトラクuta朝国王「クリシュナ2世」(~914年)
878年-01:00|クロアチア| ||<再任>クロアチア公「ステスラフ」(2度目~879年5月、死去)
878年-01:00|フランス| ||<死去>メヌ伯「ガズフリート」
878年-01:00|フランス| ||<就任>オートン伯「ティエリ4世」エシャルの弟(~879年)
878年-01:00|スペイン| ||<就任>ハルカヤ伯(ハルカヤ家)「ギフレ1世多毛伯」ギフレ・ダリア伯の子(~897年)自身の子孫による世襲制を確立
878年-01:00|スペイン| ||<就任>ハルカヤ伯「Radulf」(~912年)
878年-01:00|フランス| ||<就任>メヌ伯「レジナルド」(~885/0725死去)
878年-01:00|フランス| ||<就任>ルション伯「Miro the Elder」(~896年)
878年-01:00|イタリア| ||<即位>サリ公「アタナウス」(~898年死去)
878年-01:00|イタリア| ||イスラム軍がシチリア島のラクサを占領
878年 00:00|イギリス| ||<死去>グウィネト王「ロドリ・マウ・ア・マ・マフィン」
878年 00:00|イギリス| ||<死去>スコットランド王「Aedh mac Cinaedh」
878年 00:00|イギリス| ||<死去>ストラスカイト王「Run」
878年 00:00|イギリス| ||<死去>ノーザンブリア王「Ecgerht」反乱側
878年 00:00|イギリス| ||<死去>ホーイス王「ロドリ・マウ」

0900迄 (1424件)

878年 00:00|ポルトガル| ||<就任>コインブラ伯「Hermenegildo Gutierrez」(~920年)
878年 00:00|イギリス| ||<即位>イーストアングリア王「Aethelstan2世」(~890年死去)
878年 00:00|イギリス| ||<即位>グウィネト王「アサロト・アッ・ド・リ」(~916年死去)
878年 00:00|イギリス| ||<即位>スコットランド王「シリク・マック・ダンゲイル(ギリク1世幸運の息子)」(~889年死去)、「エカイト・マック・ルン」兼ストラスカイト王(~889年死去)
878年 00:00|イギリス| ||<即位>セイサルク王「カデル・アッ・ド・リ」(~909年死去)
878年 00:00|イギリス| ||<即位>ホイス王「マフィン・アッ・ド・リ」(~900年死去)
878年 00:00|イギリス| ||ウェセックス王国アルフレッドはイングランド東部のデーン人から攻撃を受けていたがエディントン付近でこれを破った
878年 00:00|ポルトガル| ||コインブラが奪還される(987年、イスラム教徒によって再占領~10640709)
878年1月7日-08:00|中国| ||唐・乾符4年12月|安南の戍兵が乱を起こし、桂管觀察使の李訢を追放
878年1月7日-08:00|中国| ||唐・乾符4年12月|江州刺史の劉秉仁が柳彦璋と戦い、これを破った
878年2月6日-08:00|中国| ||南詔・貞明1年|南詔の隆舜が貞明と改元(-897)
878年2月6日-08:00|中国| ||南詔・隆舜王1年|唐・乾符5年|南詔軍が四川の成都を包囲
878年2月6日-08:00|中国| ||唐・乾符5年1月1日|王仙芝が江陵外郭を陥落させた
878年2月11日-08:00|中国| ||唐・乾符5年1月6日|曾元裕が王仙芝と申州で戦い、これを破った
878年3月8日-08:00|中国| ||唐・乾符5年2月|王仙芝が湖北の黄梅で敗死/黄巢の乱の指導者
878年3月8日-08:00|中国| ||唐・乾符5年2月|王仙芝の将の王重隠が饒州を陥落させ、刺史の顔標がここに死んだ
878年3月8日-08:00|中国| ||唐・乾符5年2月|江西の賊の徐唐キョが洪州を陥落させた
878年3月20日-08:00|中国| ||唐・乾符5年2月13日|李克用が遮虜軍を寇した
878年4月7日-08:00|中国| ||唐・乾符5年3月|黄巢が濮州を陥落させ、河南を寇した
878年4月7日-08:00|中国| ||唐・乾符5年3月|湖南軍が乱を起こし、その觀察使の崔瑾を追放
878年4月21日-09:00|日本| ||元慶2年3月15日|<元慶の乱>出羽で夷俘が反乱を起こして、秋田城が急襲される
878年5月-01:00|イタリヤ| ||<死去>ベネント大公「アデルス」暗殺される
878年5月-01:00|イタリヤ| ||<即位>ベネント大公「ワイファー」(~881年死去)
878年5月6日-08:00|中国| ||唐・乾符5年4月|徐唐キョが処刑された
878年5月6日-08:00|中国| ||唐・乾符5年4月|饒州の将の彭令璋が饒州で勝利し、刺史を自称
878年5月13日-09:00|日本| ||元慶2年4月8日|興福寺の堂宇・僧房焼失
878年7月4日-09:00|日本| ||元慶2年6月|夷俘の軍勢が大挙して再度秋田城を襲い、官軍は大敗を喫して、藤原梶長も陸奥国へ逃げ帰り、城中の甲冑300領、米700石、衾(寝具)100条、馬1500匹が夷俘の手に帰した/反乱は拡大して秋田城下の12村(上津野、火内、榎淵、野代、河北、腋本、方口、大河、堤、姉刀、方上、焼岡)が夷俘の支配に落ちた
878年7月11日-09:00|日本| ||元慶2年6月8日|<任命>鎮守府將軍「小野春風」(~不詳)
878年9月1日-09:00|日本| ||元慶2年8月|夷俘の集団が次々と秋田城下に来て降伏
878年9月1日-08:00|中国| ||唐・乾符5年8月|黄巢が杭州を陥落させた
878年9月1日-08:00|中国| ||唐・乾符5年8月|大同軍節度使の李国昌が嵐軍を陥落させた
878年9月11日-01:00|スペイン| ||<就任>ハルカ伯「フレ1世」(~8970811死去 自身の子孫による世襲制を確立)
878年9月30日-08:00|中国| ||唐・乾符5年9月|黄巢が越州を陥落させ、觀察使の崔琢を捕らえた
878年9月30日-08:00|中国| ||唐・乾符5年9月|鎮海軍の将の張りが越州で勝利
878年10月28日-09:00|日本| ||元慶2年9月29日|<元慶2年相模、武蔵地震「元慶地震」>関東諸国、特に相模国、武蔵国の被害が特に甚だしい/余震が5、6日続き、官庁の建物も個人の家もすべて損壊し、地面は陥没して道路は不通となり、死亡者は数え切れず
879年-05:45|パール| ||パレー王国デーヴァ王朝のラーガヴァ・デーヴァ即位
879年-04:00|ロシア| ||<死去>ノヴゴロド公「リュリク」
879年-04:00|ロシア| ||<即位>ノヴゴロド公「ルク」(⇒882年キエフ大公~912年死去)
879年-03:30|イラン| ||<即位>デューファイト王朝国王「Ahmad ibn Abd al-Aziz」(~893年)
879年-03:00|イラク| ||<死去>ターヒル朝(バグダード政権)国王「Sulayman ibn Abdallah」(~885年)
879年-03:00|イラク| ||<復位>ターヒル朝(バグダード政権)国王「Ubaydallah ibn Abdallah」(~885年)
879年-01:00|イタリヤ| ||<死去>カプア公「ランダル2世イル・ウエスコ」
879年-01:00|フランス/ベルギー| ||<死去>サン＝ボル伯・フランドル伯「ボートゥアン1世鉄腕伯」
879年-01:00|スペイン| ||<就任>アルル伯「Theobald」(~895年死去)
879年-01:00|フランス| ||<就任>オータン伯「ボソ」フランク王(~880年)
879年-01:00|フランス/ベルギー| ||<就任>フランドル伯・サン＝ボル伯「ボートゥアン2世禿頭伯」ボートゥアン1世とJudithの息子(~9180910死去)
879年-01:00|ドイツ| ||<即位>東フランク王国(カロリング朝)国王ルートヴィヒ3世若年王「ザクセン・フランク及びテューリゲン王」(~882年)
879年-01:00|イタリヤ| ||<復位>カプア公「ハンデナル」(~882年)
879年-01:00|モロコ/フランス| ||モロコはブルゴニユの一部(フランク) (~933年)
879年1月9日-08:00|中国| ||唐・乾符5年12月13日|黄巢が福州を陥落させた
879年1月15日-08:00|中国| ||唐・乾符5年12月19日|崔季康・李鈞が李克用と洪谷で戦い、敗れた
879年2月25日-08:00|中国| ||唐・乾符6年2月|河東軍で乱が起こり、その節度使の崔季康を殺した

0900迄 (1424件)

879年4月10日-01:00|フランス/オランダ/ベルギー/ルクセンブルグ/ドイツ| |||<死去>西フランク王・フロウアンズ王・ロタリギア王「ルイ2世 吃音王」(33歳)

879年4月10日-01:00|フランス| |||<即位>西フランク王「ルイ3世」ルイ2世の子(〜08820805死去)、「カルマン2世」ルイ2世の子(〜08841212死去)

879年4月18日-09:00|日本| ||元慶3年3月23日|<死去>淳和天皇太皇太后正子内親王(71/父:嵯峨天皇、母:皇后橘嘉智子、仁明天皇同母妹)

879年4月25日-08:00|中国| ||唐・乾符6年4月1日|朔、日食があった

879年5月-01:00|クロアチア| |||<死去>クロアチア公「ステスラ」殺害される

879年5月-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア公「フランクニール」(〜892年)統一を進め、ローマ教皇から独立国家として認められた

879年5月25日-08:00|中国| ||唐・乾符6年5月|黄巢が広州を陥落させ、嶺南東道節度使の李迢を捕らえ、安南を陥落させた

879年6月5日-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<死去>サッファール朝アミール「ヤクブ・イブン・アル・ライス・アル・サッファール」

879年6月5日-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<即位>サッファール朝アミール「アムル・イブン・アル・ライス」(〜901年サーマン朝の戦闘が行われ、サッファール軍は敗北を喫し捕虜となった)

879年6月24日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・憲康王5年6月|信弘が反乱を起こして誅殺された

879年7月-01:00|フランス| |||<即位>キスラヴ・ルント王(フロウアンズ王)「ボリ」反乱を起こして、キスラヴ・ルント王国成立(〜882.9, キスラヴ・ルント王国が一旦滅亡、王位は西フランク王に戻る)

879年7月17日-09:00|日本| ||元慶3年6月24日|<死去>輔世王(生年生年未詳/皇族)

879年10月14日-09:00|日本| 京都府京都市|元慶3年9月25日|鴨川唐橋焼失

879年10月26日-09:00|日本| ||元慶3年10月8日|大極殿復興

879年11月-01:00|イタリア| |||<即位>イタリア国王「カル2世」(⇒08810212、フランク・ローマ皇帝「カル3世肥満帝」(〜08880113没)、「フリカリ辺境伯ベレンガ-1世」(2回目、08880113まで代行〜924年4月)

879年11月18日-08:00|中国| ||唐・乾符6年閏10月|黄巢が潭・レイの二州を陥落させ、レイ州刺史の李絢がここに死んだ

879年11月20日 00:00|アイルランド| |||<死去>アイルランド 上王「アイト・フィンリアス・マック・ニール」

879年11月20日 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「フアン・シン・マック・マイル・セラン」(〜09160525死去)

879年11月22日-09:00|日本| ||元慶3年閏10月5日|<死去>前賀茂斎王儀子内親王(父:文徳天皇。母:皇后藤原明子)

879年12月22日-08:00|中国| ||唐・乾符6年11月6日|黄巢が江陵を陥落させ、李迢を殺した

879年12月29日-09:00|日本| ||元慶3年11月13日|摂政藤原基経ら「日本文徳天皇実録」を撰上

880年-07:00|タイ| |||<死去>ア-ティヤ-王国第9代国王「チャタチャート王」

880年-07:00|タイ| |||<即位>ア-ティヤ-王国第10代国王「ナ-ライ王」(〜949年)

880年-05:30|インド| |||<即位>パ-ラ-ヴァ朝君主「Aparajitavarman」(〜897年退位)

880年-05:30|インド| |||<即位>パ-ンタ-ヤ朝君主「Parantaka Viranarayana」(〜900年)

880年-02:00|ギリシャ| |||<就任>イクリティヤ(クレタ島)首長「ウマル2世フン・シュアイフ」(〜895年)

880年-01:00|イタリア| |||<死去>サルノ公「ガイファ-」

880年-01:00|イタリア| |||<死去>スレート公「ランベルト1世」

880年-01:00|ドイツ| |||<死去>テューリングン公「ラトル2世」

880年-01:00|フランス| |||<就任>オ-タン伯「リシャル」ブルゴ-ニュ公、ボリの弟(〜921年死去、オ-タン伯領はブルゴ-ニュ公領に併合された)

880年-01:00|イタリア| |||<就任>サルノ公「ガイマル1世」(〜901年死去)

880年-01:00|オランダ| |||<就任>ホラント伯「Gerolf」(〜896年死去)

880年-01:00|イタリア| |||<即位>スレート公「ガイ2世」(〜883年死去)

880年-01:00|ドイツ| |||<即位>テューリングン公「ボット2世」(〜892年退位)

880年-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<即位>ロタリギア王「ルートヴィヒ若年王」(〜08820120死去)

880年 00:00|イギリス| |||<即位>グウェント王「Brochfael ap Meurig」(〜920年)

880年 00:00|モロッコ| |||<即位>モロッコ国王「ヤフヤ-イブン・アル・カスィム(ヤフヤ-3世)」(〜904年死去)

880年1月7日-08:00|中国| ||唐・乾符6年11月22日|山南東道節度使の劉巨容が黄巢と荊門で戦い、これを破った

880年1月19日-09:00|日本| ||元慶3年12月4日|畿内五ヶ国に官田四千町を設ける(元慶官田)

880年1月22日-08:00|中国| ||唐・乾符6年12月7日|山南東道節度使の劉巨容が黄巢に江陵で勝利した

880年2月2日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン公「ブルン」

880年2月2日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン公「オット1世」(〜09121130死去)

880年2月14日-09:00|日本| ||元慶4年1月|出羽の夷俘の反乱が収る(元慶の乱の終結)

880年2月14日-08:00|中国| ||唐・廣明1年1月1日|唐・僖宗が広明(-881年7月)と改元

880年3月-01:00|フランス/ドイツ| |||リブモン条約を締結し、東西のフランク王国の境界を確定、東フランク王「カル3世肥満王」がロタリギア北東部を領有

880年3月8日-08:00|中国| ||唐・廣明1年1月24日|淮南の將の張リが黄巢と大雲倉で戦い、これを破った

880年3月16日-08:00|中国| ||唐・廣明1年2月2日|李国昌が忻・代二州を寇した

880年3月22日-01:00|イタリア/ドイツ| |||<死去>イタリア王「カルマン」兼東フランク(バイエルン)王「カルマン」

880年3月22日-01:00|ドイツ| |||<領土併合>東フランク(東フランクとザクセン)王「ルートヴィヒ3世若王」バイエルンも統治(〜8820120死去)

0900迄 (1424件)

880年3月28日-08:00|中国| ||唐・廣明1年2月14日|河東軍が乱を起こし、その節度使の康伝圭を殺した
880年5月31日-08:00|中国| ||唐・廣明1年4月19日|張リが饒州で勝利
880年6月12日-08:00|中国| ||唐・廣明1年5月|泰寧軍の將の劉漢宏がそむいた
880年6月12日-08:00|中国| ||唐・廣明1年5月|張リが黄巢と信州で戦い、ここに死んだ
880年7月9日-09:00|日本| ||元慶4年5月28日|<死去>在原業平(56、貴族・歌人/父:平城天皇皇子阿保親王、母:桓武天皇皇女伊都内親王)
880年7月11日-08:00|中国| ||唐・廣明1年6月|黄巢が睦・ブ・宣の三州を陥落させた/江華の賊の蔡結が道州を陥落させた/宿州の賊の魯景仁が連州を陥落させた
880年8月10日-08:00|中国| ||唐・廣明1年7月|黄巢がヅ・ヨ・和の二州を陥落させた
880年8月28日-08:00|中国| ||唐・廣明1年7月19日|李可挙が李国昌と葉兒嶺で戦い、これを破った
880年8月28日-08:00|中国| ||唐・廣明1年7月19日|劉漢宏が降った
880年9月17日-08:00|中国| ||唐・廣明1年8月10日|昭義軍で乱があり、その節度使の李鈞を殺した
880年11月6日-08:00|中国| ||唐・廣明1年10月|黄巢が申州を陥落させた
880年11月19日-09:00|日本| ||元慶4年10月14日|出雲で大地震。神社、仏寺、官舎、百姓居瀆の多くが倒壊。負傷者多数
880年11月29日-01:00|ドイツ/オーストリア| ||<死去>バイエルン国王「カールマン(前イタリア王カロマンノ)」東フランク王が領土収容
880年12月6日-08:00|中国| ||唐・廣明1年11月|黄巢が汝州を陥落させた
880年12月13日-09:00|日本| ||元慶4年11月8日|<任命>関白「藤原基経」
880年12月22日-08:00|中国| ||唐・廣明1年11月17日|東都留守の劉允章が叛いて黄巢についた
880年12月27日-08:00|中国| ||唐・廣明1年11月22日|黄巢が汴州を陥落させた
881年-04:00|ジョージア| ||<死去>イェリヤ公「ダヴィッド1世」
881年-04:00|ジョージア| ||<就任>イェリヤ公「グルゲン1世」(~891年死去)
881年-01:00|イタリア| ||<死去>ベネチント大公「ワifar」
881年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第15代ドージェ(元首)「ジョヴァンニ・パルチザノ2世」(~887年)
881年-01:00|イタリア| ||<即位>ベネチント大公「ランバルド2世」(~884年廃位)
881年-01:00|オーストリア/ハンガリー| ||ハンガリー人がオーストリアへ侵入
881年 00:00|イギリス| ||<死去>マシア王「チオルル2世」
881年 00:00|イギリス| ||マシアをイギリスが統治
881年1月4日-08:00|中国| ||唐・広明1年:斉・王霞3年12月|黄巢が長安を占領し、ついで帝位に就いて国号を大齊と
881年1月6日-08:00|中国| ||唐・廣明1年12月3日|黄巢が潼関を陥落させた
881年1月7日-09:00|日本| ||元慶4年12月4日|<死去>第56代天皇・清和上皇/31歳(誕生:嘉祥3(850)0325)
881年1月9日-09:00|日本|京都府|元慶4年12月6日|夜、山城、京などで大地震。翌昼までに16回発生。大極殿の西北隅が崩壊。建造物の破損多し
881年1月10日-08:00|中国| ||唐・廣明1年12月7日|黄巢が京師を陥落させた
881年1月10日-08:00|中国| ||唐・廣明1年12月7日|左金吾衛大將軍の張直方が武官を率いて叛いて黄巢についた
881年1月20日-08:00|中国| ||唐・廣明1年12月17日|河陽節度使の諸葛爽が叛いて黄巢についた
881年1月24日-08:00|中国| ||唐・廣明1年12月21日|広徳公主・豆盧瑑・崔沆・尚書左僕射の劉ギョウ・右僕射の于琮・太子少師の裴沔・御史中丞の趙濛・刑部侍郎の李溥・京兆尹の李湯が黄巢のために死んだ
881年2月3日-09:00|日本| ||元慶5年|この年、在原行平が大学別曹奨学院を創始
881年2月8日-09:00|日本| ||元慶5年1月6日|<死去>文徳天皇皇女慧子内親王(母:藤原列子、第4代賀茂斎王)
881年2月12日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| ||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝「カル3世肥満帝」イタリア国王・東フランク王カロ2世(8820120まで西フランク王~08880113没)
881年3月4日-08:00|中国| ||唐・廣明2年2月1日|鳳翔節度使の鄭畋が黄巢と龍尾坡で戦い、これを破った
881年3月4日-08:00|中国| ||唐・廣明2年2月1日|ヒ寧の將の王バイがヒ州を陥落させた
881年4月3日-08:00|中国| ||唐・廣明2年3月|この月、諸葛爽が河陽をもって降った
881年4月5日-08:00|中国| ||唐・廣明2年3月3日|黄巢が鄧州を陥落させ、刺史の趙戎を捕らえた
881年5月2日-08:00|中国| ||唐・廣明2年4月1日|程宗楚および朔方軍節度使の唐弘夫が黄巢と咸陽で戦い、これを破った
881年6月1日-08:00|中国| ||唐・廣明2年5月|この月、楊復光が鄧州を落とした
881年6月9日-08:00|中国| ||唐・廣明2年5月9日|李克用が太原を寇し、振武軍節度使の契ヒ璋がこれを破った
881年6月30日-08:00|中国| ||唐・廣明2年6月|ホウの賊の鍾季文が明州を陥落させた
881年7月14日-08:00|中国| ||唐・廣明2年6月15日|ヒ寧節度副使の朱ヨウが黄巢と興平で戦い、敗れた
881年7月29日-08:00|中国| ||唐・廣明2年6月30日|李克用が忻・代の二州を陥落させた
881年8月3日-01:00|フランス| ||7月5日|西フランクのル3世が、ソム川流域のヴァイキングに大勝
881年8月9日-08:00|中国| ||唐・中和1年7月11日|唐・僖宗が中和(-885年3月)と改元
881年8月18日-08:00|中国| ||唐・中和1年7月20日|神策軍の將の郭琪がそむき、処刑された
881年8月29日-08:00|中国| ||唐・中和1年8月|昭義軍節度使の高潯が黄巢と石橋で戦い、敗れ、十將の成麟が高潯を殺し、州に入った
881年9月10日-08:00|中国| ||唐・中和1年8月13日|多くの星が成都に落ちた
881年9月27日-08:00|中国| ||唐・中和1年9月1日|臨海の賊の杜雄が台州を陥落させた

0900迄 (1424件)

881年9月27日-08:00|中国| ||唐・中和1年9月1日|7延節度使の李孝章・夏綏銀節度使の拓拔思恭が黄巢と東渭橋で戦い、敗れた

881年10月20日-08:00|中国| ||唐・中和1年9月24日|永嘉の賊の朱褒が温州を陥落させた

881年11月25日-08:00|中国| ||唐・中和1年11月|遂昌の賊の盧約が処州を陥落させた

882年-04:00|ジョージア| ||<即位>アブハジ7世「バグラト1世」(~894年)

882年-02:00|ウクライナ| ||<死去>キエフ大公「アスコルト・ジール」殺害される

882年-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<即位>キエフ大公「オレグ」ノヴゴロド公(~912年秋死去)

882年-01:00|フランス| ||<就任>パリ伯「アタール」西フランク王ルイ2世の舅(~8901010死去)

882年-01:00|フランス| ||<就任>パリ伯「ウート」西フランク王(~888年)

882年-01:00|イタリア| ||<即位>カファ公「ランド3世」前王のいとこ(~885年死去)

882年-01:00|ドイツ| ||<即位>テューリンゲン公「エギノ」ホッポ2世の弟(~886年)

882年-01:00|スペイン| ||<即位>ナバラ王・パンプローナ王「フォルトゥン・ガルス」ガルス・イネスの男子(~905年廃位)

882年1月20日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス| ||<死去>東フランク(東フランクとザクセン・バイエルン)王・ロティンギア王「ルートヴィヒ3世若年王」

882年1月20日-01:00|ドイツ/イタリア| ||<領土併合>西ローマ皇帝・イタリア王「カル3世肥満帝」兼東フランク(アヘニアとラエティア)王「カル3世肥満帝」東部王国全体を統治(~8871111廃位)

882年1月23日-08:00|中国| ||南詔・承智1年|南詔が承智と改元

882年2月16日-09:00|日本| ||元慶6年1月25日|<死去>嵯峨天皇皇女源全姫(71/母:女孺当麻治田麻呂女、同母姉:源潔姫)

882年3月23日-08:00|中国| ||唐・中和2年3月|李克用が蔚州を陥落させた

882年3月23日-08:00|中国| ||唐・中和2年3月|キョウ州蛮の阡能が叛き、西川の部将の楊行遷がこれを討った

882年6月20日-08:00|中国| ||唐・中和2年6月|楊行遷が阡能と乾溪で戦い、敗れた

882年7月19日-08:00|中国| ||唐・中和2年7月|撫州刺史の鍾伝が洪州を陥落させ、江西観察使の高茂卿が江州に逃れた

882年8月5日-01:00|フランス| ||<死去>西フランク王「ルイ3世」→カルマン2世が単独王になる(~08841212死去)

882年8月5日-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||西フランク王(カロリング朝)ルイ3世遺領ロティンギア王を相続しカル3世肥満王(~887年)が東フランク王国全土を領有(~8871111死去)

882年9月-01:00|フランス| ||<退位>キヌワフ「ルグント王(プロヴァンス王)」ボリ「キヌワフ」ルグント王国が一旦滅亡、王位は西フランク王に戻る

882年9月20日-09:00|日本| ||元慶6年8月5日|<死去>平城天皇皇子巨勢親王(母:伊勢継子、同母兄:高丘親王)

882年10月3日-08:00|中国| ||唐・中和2年8月18日|魏博節度使の韓簡が孟州を陥落させた

882年10月16日-08:00|中国| ||唐・中和2年9月|この月、嶺南西道軍が乱を起こし、その節度使の張従訓を追放

882年11月1日-08:00|中国| ||唐・中和2年9月17日|黄巢軍の朱全忠が唐に降伏し、唐側の将軍として黄巢軍を討伐開始

882年11月15日-08:00|中国| ||唐・中和2年10月|諸葛爽が孟州を陥落させた

882年11月15日-08:00|中国| ||唐・中和2年10月|嵐州刺史の湯群が沙陀をつれてそむいた/韓簡がウ州を寇し、天平軍節度使の曹全がここで死に、部将の崔用が留後を自称

882年12月14日-08:00|中国| ||唐・中和2年11月|荆南軍が乱を起こし、衙将の陳儒が留後を自称

882年12月16日-01:00|パチン| ||<死去>第107代ローマ教皇「ヨハネス8世」側近により暗殺

882年12月16日-01:00|パチン| ||<就任>第108代ローマ教皇「マリヌ1世」(~08840515死去)

882年12月21日-08:00|中国| ||唐・中和2年11月8日|湯群が処刑された

882年12月27日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||渤海・寛明11年11月14日|渤海使裴沔ら105人が加賀国に漂着

883年-01:00|イタリア| ||<死去>スレート公「ガ」12世

883年-01:00|フランス| ||<死去>メコン伯「Theodoric of Vergy」

883年-01:00|イタリア| ||<即位>スレート公「ガ」13世(~8941212死去)

883年-01:00|チェコ| ||<即位>ボヘミア公「ストロミル」(~885年)

883年-01:00|北マケドニア/ブルガリア/コソボ| ||マケドニア、コソボはブルガリアの一部(~1018年)

883年 00:00|モロッコ| ||<死去>モロッコ国王(イドリス朝)「アリー・イブン・ウマル(アリ-2世)」

883年 00:00|アイスランド| ||<即位>ノーザンブリア王「Godhefridhr Hardheknutsson」(~08950824死去)

883年2月2日-09:00|日本| ||元慶6年12月21日|葛野郡嵯峨野での狩猟禁止

883年3月13日-08:00|中国| ||唐・中和3年2月|魏博軍が乱を起こし、その節度使の韓簡を殺し、その将の楽彦禎が留後を自称

883年3月21日-09:00|日本| ||元慶7年2月9日|上総国市原郡で俘囚叛乱

883年4月16日-08:00|中国| ||唐・中和3年3月6日|李克用が黄巢と零口で戦い、これを破った

883年5月18日-08:00|中国| ||唐・中和3年4月8日|李克用がまた黄巢を渭南で破った

883年5月20日-08:00|中国| ||唐・中和3年4月10日|李克用が京師を奪回

883年6月9日-08:00|中国| ||唐・中和3年5月|奉国軍節度使の秦宗権がそむいて黄巢についた

883年6月9日-08:00|中国| ||唐・中和3年5月|淮南の将の張?が復州を陥落させた

883年8月11日-03:30|イラン| ||7月5日|ムハンマドが逃亡し自殺/サジの乱が鎮圧される

883年9月5日-08:00|中国| ||唐・中和3年8月|黄巢・秦宗権が陳州を寇した

883年9月5日-08:00|中国| ||唐・中和3年8月|淮南の将の韓師徳が岳州を陥落させた

883年11月4日-08:00|中国| ||唐・中和3年10月|全椒の賊の許勅がジョ州を陥落させた/李克用がロ州を陥落させ、

0900迄 (1424件)

刺史の李殷銳がここに死んだ

883年12月12日-08:00|中国| ||唐・中和3年11月9日|劍南西川行軍司馬の高仁厚が阡能とキョウ州で戦い、これを破った

884年-01:00|フランス| |||<就任>メーコン伯「Bernard Plantevelue」(~886年死去)

884年-01:00|イタリア| |||<即位>ベネチア大公「アイウル2世」(~891年)

884年-01:00|イタリア| |||<廃位>ベネチア大公「テメル2世」

884年1月6日-03:30|イラン| |||<死去>アラブ・イ朝エミール「ハサン・イブン・ザイド」

884年1月6日-03:30|イラン| |||<即位>アラブ・イ朝エミール「ハサマド・イブン・ザイド」(~900/1003死去)

884年2月1日-08:00|中国| ||唐・中和4年|拓跋思恭がタンギートの覇権を確立し、オグズの節度使を拝命

884年2月1日-08:00|中国| ||唐・中和4年1月|ブ州の将の王鎮がその刺史の黄碣を捕らえ、叛いて董昌についた

884年3月1日-08:00|中国| ||唐・中和4年2月|蒲陽の将の蔣?がブ州を陥落させた

884年3月1日-08:00|中国| ||唐・中和4年2月|王鎮が処刑された

884年3月4日-09:00|日本| ||元慶8年2月4日|<退位>「第57代陽成天皇」

884年3月5日-09:00|日本| ||元慶8年2月5日|<踐祚>「58代光孝天皇」2月23日即位

884年4月2日-08:00|中国| ||唐・中和4年3月3日|劍南東川節度副大使の楊師立がそむき、西川節度使の陳敬瑄が西川・東川・山南西道都指揮招討使となった

884年4月2日-08:00|中国| ||唐・中和4年3月3日|前杭州刺史の路審中が鄂州を陥落させた

884年4月8日-09:00|日本| ||元慶8年3月9日|<任命>鎮守府将軍「安倍三寅」(~不詳)

884年5月10日-02:00|エジプト| |||<死去>トゥールン朝アミール「アフマト・ブン・トゥールン」

884年5月10日-02:00|エジプト| |||<即位>トゥールン朝アミール「フマラウィフ・ブン・アフマト・ブン・トゥールン」(~0896/0118殺害される)

884年5月15日-01:00|バチカン| |||<死去>第108代ローマ教皇「マリヌ1世」

884年5月17日-01:00|バチカン| |||<就任>第109代ローマ教皇「ハドリアヌス3世」(~0885/0705死去)

884年5月29日-08:00|中国| ||唐・中和4年5月1日|朱全忠が黄巢と戦い、これを破った

884年6月8日-08:00|中国| ||唐・中和4年5月11日|河東節度使の李克用が黄巢と宛句で戦い、これを破った

884年7月1日-09:00|日本| ||元慶8年6月5日|<新設>関白(光孝天皇から藤原基経に対して国政委任の詔が出されたのが始まり)

884年7月19日-09:00|日本| ||元慶8年6月23日|郡司百姓が石見守を襲撃し印・駅鈴等を奪う

884年7月28日-08:00|中国| ||唐・中和4年7月3日|楊師立が処刑された

884年8月18日-08:00|中国| ||唐・中和4年7月24日|黄巢が処刑された

884年8月28日-09:00|日本| ||元慶8年8月4日|戊より子に至り、小星四方に流散し、雨の如く墜ちる

884年9月23日-08:00|中国| ||唐・中和4年9月|山南西道節度使の鹿晏弘がそむいた

884年10月12日-09:00|日本| ||元慶8年9月20日|<死去>淳和天皇皇子恒貞親王(60/母:嵯峨天皇皇女正子内親王、仁明廃太子)

884年11月22日-08:00|中国| ||唐・中和4年11月|鹿晏弘が許州を陥落させ、節度使の周岌を殺して、留後を自称

884年12月12日-01:00|フランス| |||<死去>西フランク王「カルマン2世」

884年12月12日-01:00|フランス| |||<即位>西フランク王「フランク・ローマ皇帝・東フランク王カール3世肥満王」領土併合しフランク王国統一(~0887/1111死去)

885年-05:30|インド| |||<死去>プラーティーハール朝国王「ホージャ1世」

885年-05:30|インド| |||<即位>チャンドラ朝国王「Rahila」(~905年)

885年-05:30|インド| |||<即位>プラーティーハール朝国王「マヘントラパール1世」(~910年)

885年-05:30|インド| |||ハッラヴァ朝がシュリーランピヤムでパーンデヤ朝を破る

885年-04:00|アルメニア| |||<即位>バグラトゥン朝アルメニア王「アショト1世」建国(~890年、死去)

885年-03:00|イラク| |||<即位>ターヒル朝(バグダート政権)国王「Muhammad ibn Tahir2世」(~889年)

885年-01:00|スペイン| |||<死去>カスティーリャ伯「Diego Rodriguez Porcelos」

885年-01:00|イタリア| |||<死去>カプア公「ランド3世」

885年-01:00|イタリア| |||<即位>カプア公「ランダルフ1世」前王の兄弟(~887年)

885年-01:00|ニジェール| |||<即位>ソングイ王国国王「ク」(~897年)

885年-01:00|チェコ| |||<復位>ボヘミア公「ボジワフ1世」(~889年死去)

885年1月20日-08:00|中国| ||唐・中和5年1月|この月、王緒が汀・ショウの二州を陥落させた/南康の賊の盧光稠が虔州を陥落させた

885年2月5日-09:00|日本| ||元慶9年1月17日|参議以下の貂裘着用を禁止

885年2月12日-08:00|中国| ||唐・中和5年1月24日|荊南軍の将の成ゼイが歸州を陥落させた

885年3月8日-09:00|日本| |京都府京都市|元慶9年2月18日|左京で火災、三百余を焼失

885年3月11日-09:00|日本| ||仁和1年2月21日|元慶から仁和に改元

885年4月2日-08:00|中国| ||唐・光啓1年3月14日|唐・僖宗が光啓(-888年1月)と改元

885年5月18日-08:00|中国| ||唐・光啓1年4月|吳廻が処刑された

885年5月18日-08:00|中国| ||唐・光啓1年4月|秦宗権が襄州を陥落させ、山南東道節度使の劉巨容が成都に逃れた/武当の賊の馮行襲が均州を陥落させ、その刺史の呂燁を追放

885年5月19日-09:00|日本| ||仁和1年4月2日|<死去>淳和天皇皇女氏子内親王(母:桓武天皇皇女高志内親王、第27代伊勢斎王)

885年5月29日-09:00|日本/韓国| ||新羅・憲康王11年4月12日|肥後国天草に新羅使徐善行らが来着/これを放逐

0900迄(1424件)

885年7月5日-01:00|バチカン| ||<死去>第109代ローマ教皇「ハドリアヌス3世」
885年7月16日-08:00|中国| ||唐・光啓1年6月|幽州盧龍軍が乱を起こし、その節度使の李可挙を殺し、その将の李全忠が留後を自称
885年7月24日-08:00|中国| ||唐・光啓1年6月9日|秦宗権が東都を陥落させた
885年7月25日-01:00|フランス| ||<死去>メヌ伯「レシナルド」
885年7月25日-01:00|フランス| ||ヴァイキングの首長のロバートが、ルーアンを占拠
885年8月14日-08:00|中国| ||唐・光啓1年7月|義昌軍が乱を起こし、その節度使の楊全勳を追放し、衙將の盧彦威が留後を自称
885年9月14日-01:00|バチカン| ||<就任>第110代ローマ教皇「ステファヌス6世」(~08910914死去)
885年10月12日-08:00|中国| ||唐・光啓1年9月|河中節度使の王重栄がそむき、ヒン寧節度使の朱全忠がこれを討った
885年11月12日-08:00|中国| ||唐・光啓1年10月2日|朱全忠が秦宗権と双丘で戦い、敗れた
885年11月24日-01:00|フランス| ||ノルマン(デーン人)の船団がセーヌ川をさかのぼってパリに侵攻/パリは屈しなかった(パリの戦い)
885年11月30日-09:00|日本| ||仁和1年10月20日|大宰府に到着した唐商人との私交易を禁じる
885年12月10日-08:00|中国| ||唐・光啓1年11月|河東節度使の李克用が叛いて王重栄につき、王重栄と李克用が同州を寇して、刺史の郭璋がここに死んだ
886年-04:00|オマーン| ||<即位>オマーン(元首)イマム:ラシッド・ヒン・アル=ナダール
886年-01:00|スペイン| ||<死去>後ウマイヤ朝第5代アミール「ムハンマド1世」
886年-01:00|フランス| ||<死去>オセル伯「Hugh the Abbot」
886年-01:00|イタリヤ| ||<死去>トスカナ辺境伯「アダルベルト1世」
886年-01:00|フランス| ||<死去>メコン伯「Bernard Plantevelue」
886年-01:00|フランス| ||<就任>オーベルニュ伯・メコン伯「William1世」アキテーヌ公(~9180706死去)
886年-01:00|フランス| ||<就任>オセル伯「Richard」Adelaide2世と結婚(~921年死去)
886年-01:00|フランス| ||<就任>シャトーダン伯「Robert1世」(~同年)⇒「Adalelm」(~8940408死去)
886年-01:00|フランス| ||<就任>トゥールーズ伯「ウード」(~918年)
886年-01:00|イタリヤ| ||<就任>トスカナ辺境伯「アダルベルト2世」アダルベルト1世の子(~9150910死去)
886年-01:00|フランス| ||<就任>トワ伯「Adalelm」(~8940408死去)
886年-01:00|フランス| ||<就任>ナント伯「Berenga2世」(~896年死去)
886年-01:00|フランス| ||<就任>フランク王国ヴェルマント7伯「Pepin3世」(~892年);ウァロワ伯(~893年死去)
886年-01:00|フランス| ||<就任>メヌ伯「ロジャー」(~893年)
886年-01:00|スペイン| ||<即位>後ウマイヤ朝第6代アミール「ムンジール」(~888年死去)
886年 00:00|イギリス| ||<即位>グウィウシング王「Owain ap Hywel」(~930年死去)
886年 00:00|イギリス| ||アングロ=サクソン王「アルフレッド大王」デーン人からロンドンを奪還
886年1月31日-01:00|フランス| ||デーン勢が再びパリに襲いかかる/パリは司教ゴズランらの指揮のもと良く戦うが、2月6日までの戦闘でやがてデーン人に包囲される
886年1月31日-08:00|中国| ||唐・光啓1年12月23日|朱全忠が王重栄・李克用と沙苑で戦い、敗れた
886年2月2日-08:00|中国| ||唐・光啓1年12月25日|李克用が京師を侵した
886年2月4日-09:00|日本| 京都府京都市|仁和1年12月27日|右京二条で火災/二百余家を焼く
886年2月8日-08:00|中国| ||南詔・大同1年|南詔が大同と改元
886年2月8日-08:00|中国| ||唐・光啓2年1月1日|鎮海軍の將の張郁が常州を陥落させた
886年2月20日-08:00|中国| ||唐・光啓2年1月13日|朱全忠が叛き、鳳翔を寇した
886年2月23日-09:00|日本| ||仁和2年1月16日|<任命>鎮守府將軍「御春種実」(~不詳)
886年4月10日-08:00|中国| ||唐・光啓2年3月3日|遂州刺史の鄭君雄が漢州を陥落させた
886年4月20日-09:00|日本| 京都府京都市|仁和2年3月13日|東寺の新造塔に落雷焼失
886年6月13日-08:00|中国| ||唐・光啓2年5月8日|武寧軍の將の丁從実が常州を陥落させ、その刺史の張郁を追放
886年6月29日-09:00|日本| ||仁和2年5月24日|上総、下総、安房で大地震あり。安房方面に黒雲あり、その中で電光ひらめき、地震を起こる。一晩中続く。砂石粉土地上に積もる。草木悉く枯れ、馬牛の粉草を食して死する者はなはだ多し
886年7月6日-08:00|中国| ||唐・光啓2年6月|衡州刺史の周岳が潭州を陥落させ、節度使を自称
886年8月3日-09:00|日本| ||仁和2年6月29日|<死去>桓武天皇皇女紀内親王(88/母:藤原河子、同母兄:仲野親王)
886年8月4日-08:00|中国| ||唐・光啓2年7月|秦宗権が許州を陥落させ、忠武軍節度使の鹿晏弘がここに死んだ
886年8月8日-09:00|韓国| ||新羅・憲康王12年7月5日|<死去>新羅王「憲康王」
886年8月8日-09:00|韓国| ||新羅・定康王1年7月5日|<即位>新羅王「定康王」(~08870728死去)
886年8月29日-02:00|トルコ/セルビア| ||<死去>東ローマ帝国皇帝(マケドニア朝)「バシレイオス1世」
886年8月29日-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ帝国皇帝(マケドニア朝)レオン6世フィロソフス(賢帝)[バシレイオス1世の子](~09120511死去)
886年9月2日-08:00|中国| ||唐・光啓2年8月|王潮が泉州を陥落させ、刺史の廖彦若がここに死んだ
886年9月13日-09:00|日本| 京都府京都市|仁和2年8月12日|右京衛士坊舎で火災。民家百余家を焼失
886年10月3日-08:00|中国| ||唐・光啓2年9月2日|静難軍の將の王行瑜が興・鳳の二州を陥落させた

0900迄 (1424件)

886年10月16日-09:00|日本| ||仁和2年9月16日|<死去>多自然麿、平安時代の雅楽の大家(生年生年未詳)

886年10月31日-08:00|中国| ||唐・光啓2年10月|この月、神策行營先鋒使の満存が興・鳳の二州を落とした/感義軍節度使の楊晟が文州を陥落させた/武寧軍の將の張雄が蘇州を陥落させた

886年10月31日-08:00|中国| ||唐・光啓2年10月1日|嗣襄王李㮮が自ら立って皇帝となり、皇帝を尊んで太上元皇帝とした

886年10月31日-08:00|中国| ||唐・光啓2年10月1日|朱全忠が滑州を陥落させ、義成軍節度使の安師儒を捕らえた

886年11月10日-08:00|中国| ||唐・光啓2年10月11日|杭州刺史の董昌が越州を攻め、浙東觀察使の劉漢宏が台州に逃れた

886年12月24日-08:00|中国| ||唐・光啓2年11月25日|秦宗権が鄭州を陥落させた

886年12月30日-08:00|中国| ||唐・光啓2年12月2日|台州刺史の杜雄が劉漢宏を捕らえ、董昌を降した

887年-04:00|ジョージア| ||<即位>アブハツ王「アタナセ」(~893年)

887年-03:30|イラン| ||<即位>ハダスハニト朝君主「Hazar Sandan」(~899年)

887年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第16代トリエ(元首)「ピエトロ・カンデリアーノ1世」(~08870918)

887年-01:00|フランス| ||<即位>アキヌ公「ラムル2世」(~8900805死去)

887年-01:00|フランス| ||<即位>キヌフ「ルント王(フロンツ王)」ルイ3世「キヌフ「ルント王」王国復活(~9280605死去)

887年1月7日-01:00|フランス| ||<即位>カプア公「アタル1世」前王の兄弟(~910年死去)

887年1月9日-08:00|中国| ||唐・光啓2年12月12日|朱ヨウが処刑された

887年1月10日-08:00|中国| ||唐・光啓2年12月13日|秦宗権が孟州を陥落させ、諸葛仲方がヘン州に逃れた

887年1月10日-08:00|中国| ||唐・光啓2年12月13日|李㮮が処刑された

887年1月11日-01:00|フランス| ||<死去>メコン伯「Boso of Provence」

887年1月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・定康王2年1月|漢州の金莚が反乱を起こし王は派兵して金莚を誅殺させた

887年3月29日-09:00|日本| ||仁和3年3月|宇多天皇、仁和寺創建<真言宗御室派総本山/京都府>

887年4月27日-08:00|中国| ||唐・光啓3年4月1日|六合鎮遏使の徐約が蘇州を陥落させ、その刺史の張雄を追放

887年5月17日-08:00|中国| ||唐・光啓3年4月21日|淮南兵馬使の畢師鐸が揚州を陥落させ、その節度使の高駘を捕らえた

887年6月5日-08:00|中国| ||唐・光啓3年5月10日|秦宗権が鄭州を陥落させた

887年6月9日-09:00|日本| ||仁和3年5月14日|韓(唐)橋に初めて橋守を2人設置

887年6月25日-08:00|中国| ||唐・光啓3年6月|秦宗権が孟州を陥落させ、河陽の將の李罕之が孟州に入り、張全義が東都に入った

887年7月1日-08:00|中国| ||唐・光啓3年6月7日|鳳翔節度使の李昌符がそむいた

887年7月24日-08:00|中国| ||唐・光啓3年7月|李昌符が処刑された

887年7月28日-09:00|韓国| ||新羅・定康王2年7月5日|<死去>新羅王「定康王」死去

887年7月28日-09:00|韓国| ||新羅・真聖女王1年7月5日|<即位>新羅王「真聖女王」(~08970704)

887年7月29日-09:00|日本| 京都府京都市|仁和3年7月6日|京都で地震(M6.5)越後西部で津波による溺死者は1000人にのぼったとされる

887年8月22日 07:00|日本| ||仁和3年7月30日|<仁和地震>16時ごろ、大地震/諸官庁の建物や倉庫及び京市中の民家は、そこかしこで倒壊し、圧死者は多数/あるいは気を失い急死した人も/22時ごろまた三度揺れた/近畿地方だけでなく日本国中同じ日に大地震があり、官庁の建物が多く損壊/津波も押し寄せ、溺死者は数え切れないほど/摂津国がもっとも被害が多かった/信濃国で大きな山(北八ヶ岳と推定)が崩落し、巨河(千曲川と推定)の流れが氾濫/国内の城郭も民家も押し流され、牛や馬、人の男も女も死亡して死体の丘を作った

887年8月23日-08:00|中国| ||唐・光啓3年8月1日|謝殷が処刑された

887年8月23日-08:00|中国| ||唐・光啓3年8月1日|朱全忠が亳州を陥落させた

887年9月2日-08:00|中国| ||唐・光啓3年8月11日|朱全忠が曹州を陥落させ、刺史の丘弘礼がここに死んだ

887年9月17日-09:00|日本| ||仁和3年8月26日|<死去>「58代天皇光孝天皇」58歳(誕生:天長7(830))

887年9月17日-09:00|日本| ||仁和3年8月26日|<踐祚>「定省親王」(皇太子)11月17日59代宇多天皇として即位

887年10月21日-08:00|中国| ||唐・光啓3年10月|この月、秦宗権の將の孫儒が揚州を寇した

887年10月27日-08:00|中国| ||唐・光啓3年10月7日|朱全忠が濮州を陥落させた

887年11月3日-08:00|中国| ||唐・光啓3年10月14日|杭州刺史の錢鏐が常州を陥落させた

887年11月11日-01:00|ドイツ| ||<即位>東フランク王「アルムフ「ケルテン公」(~08991208死去)

887年11月11日-01:00|イタリア| ||<即位>イタリア王「ベレンガール1世」カール1世の外孫(~9240407死去)

887年11月11日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| ||<廃位>フランク・ローマ皇帝・東フランク王・西フランク王「カール3世肥満王」(~08880113死去)

887年11月17日-01:00|フランス| ||<即位>カリンギア王「Arnulf of Carinthia」(~895年)

887年11月21日-08:00|中国| ||唐・光啓3年11月3日|廬州刺史の楊行密が揚州を陥落させ、秦彦・畢師鐸が孫儒のもとに逃れた

887年11月30日-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| ||<即位>東フランク王国「アルムフ・フォン・ケルテン」カールマンの息子(⇒8960425西ローマ皇帝~8991208死去)兼カリンギア王(~895年)

887年12月9日-09:00|日本| ||仁和3年11月21日|<就任>関白:藤原基経(~寛平2年12月14日)太政大臣/人臣関白の初め

888年-04:00|ジョージア| ||<即位>イベリア王「アタナセ」4世|建国(~923年死去)

0900迄 (1424件)

888年-02:00|トルコ| ||ビザンティン帝国法令集の「バシリカ」が發布
888年-01:00|スペイン| ||<死去>後ウマイヤ朝第6代アミール「ムンシール」
888年-01:00|フランス| ||<死去>ブルターニュ公(北ブルターニュ)「ユディカール」
888年-01:00|フランス| ||<死去>レンヌ伯「Judicael」
888年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第17代ドージェ(元首)「ピエトロ・トリパーノ」(~912年)
888年-01:00|フランス| ||<就任>パリ伯「ロベール1世」西フランク王(~923年)
888年-01:00|フランス| ||<就任>レンヌ伯「Berengar 2世」(~896年死去)
888年-01:00|スペイン| ||<即位>後ウマイヤ朝第7代アミール「アブド・アッラーフ」(~9121015死去)
888年-01:00|フランス| ||<即位>キスユー・ブルグント王「ルイ3世盲目王」(~9280605死去)
888年-01:00|フランス| ||<即位>ユーラブルグント王「ルドルフ1世」ブルグント北部(ユーラブルグント)の貴族及び聖職者達は聖マルタンのもとに集まり、古ヴェルマ家出身のセール伯ルドルフ1世をブルグント王に推戴(~9121025死去)
888年1月13日-01:00|ドイツ/フランス/イタリア| ||<死去>前フランク・ローマ皇帝「カール3世肥満王」(誕生839年)
888年2月10日-08:00|中国| ||唐・光啓3年12月25日|淮西の將の趙德諤が江陵を陥落させ、荊南節度使の張勣がここに死んだ/饒州刺史の陳儒が衢州を陥落させた/上蔡の賊の馮敬章が兗州を陥落させた
888年2月16日-08:00|中国| ||唐・光啓4年|<即位>ホータン王「尉遲毘訖羅摩」(~911年)
888年2月29日-01:00|フランス| ||<即位>西フランク王「ウート」ロベール強公の子(~08980103死去)
888年3月14日-08:00|中国| ||唐・光啓4年1月28日|錢鏐が潤州を陥落させた
888年3月14日-08:00|中国| ||唐・光啓4年1月28日|薛朗が処刑された
888年3月17日-08:00|中国| ||唐・文徳1年2月|この月、魏博軍で乱があり、その節度使の楽彦禎を殺し、その將の羅弘信が権知留後を自称
888年4月7日-08:00|中国| ||唐・文徳1年2月22日|唐・僖宗が文徳(-12月)と改元
888年4月15日-08:00|中国| ||唐・文徳1年3月1日|朔、皆既日食があった
888年4月20日-08:00|中国| ||唐・文徳1年3月6日|<死去>唐第21代皇帝「僖宗李儇」武徳殿で崩じた(27)
888年4月22日-08:00|中国| ||唐・文徳1年3月8日|<即位>唐第22代皇帝「昭宗李敏」(~天祐元年8月11日904年9月22日)死去)
888年5月15日-08:00|中国| ||唐・文徳1年4月1日|孫儒が揚州を陥落させ、淮南節度使を自称し、楊行密が廬州に逃れた
888年5月22日-08:00|中国| ||唐・文徳1年4月8日|成瑱が江陵を陥落させ、留後を自称
888年5月22日-08:00|中国| ||唐・文徳1年4月8日|張全義が孟州を陥落させ、李罕之が河東に逃れた
888年6月7日-08:00|中国| ||唐・文徳1年4月24日|朱全忠が秦宗權と蔡州で戦い、これを破った
888年6月18日-08:00|中国| ||唐・文徳1年5月6日|趙德諤が襄州をもって降った
888年6月20日 07:00|日本| ||仁和4年5月8日|仁和地震で千曲川に発生した天然ダム(せき止め湖)崩壊し大氾濫「仁和の洪水」で多数の死者発生
888年6月24日-01:00|フランス/ルウェー| ||「西フランク国王」ウート、ヴァイキング(ノルマン人)と戦いこれを破る
888年7月13日-08:00|中国| ||唐・文徳1年6月|岷州防禦使の王建が漢州を陥落させ、刺史の張勣を捕らえて、成都を寇した
888年7月14日-09:00|日本| ||仁和4年6月2日|<再任>関白「藤原基経」(阿衡事件)
888年9月26日-09:00|日本| ||仁和4年8月17日|<創建>仁和寺[真言宗御室派総本山](京都)宇多天皇
888年11月8日-08:00|中国| ||唐・文徳1年10月|陳敬瑄がそむいた
888年11月24日-09:00|日本| ||仁和4年10月17日|<死去>源多、平安時代の皇族、公卿(生年831年)
888年12月9日-08:00|中国| ||唐・文徳1年11月3日|秦宗權が許州を陥落させ、忠武軍節度使の王勣を捕らえた
889年-07:00|カンボジア| ||<即位>クメール王朝国王「ヤバルマン1世」(~910年)
889年-07:00|ラオス/カンボジア| ||シェンクアーンはクメール(カンボジア)帝国の一部(~1368年)
889年-07:00|ラオス/カンボジア| ||ルンパパン(ランサン)はクメール(カンボジア)帝国の一部
889年-03:00|イラク| ||<復位>ターヒル朝(バグダード政権)国王「Ubaydallah ibn Abdallah」(~891年)
889年-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハン「ウラジミール」(~893年廃位)
889年-02:00|ブルガリア| ||<退位>ブルガリア帝国ハン「ボリス1世(ミハイル)」(~09020502死去)
889年-01:00|チェコ| ||<死去>ボヘミア公「ボジヴォイ1世」
889年-01:00|チェコ| ||<即位>ボヘミア公「スピチフネフ1世」(~915年死去)
889年-01:00|イタリア| ||イタリア王ベレンガリオ1世、パヴィーアの戦いで負ける
889年 00:00|イギリス| ||<死去>スコットランド王兼ストラスカイト王「イカド・マック・ルン」
889年 00:00|イギリス| ||<死去>スコットランド王「ジリック・マック・ダンゲイル(ギリク1世幸運の息子)」
889年 00:00|イギリス| ||<即位>スコットランド王「Domhnall mac Causantin(ドナルド2世「マダム」ないし「狂王」)」(~900年死去)
889年 00:00|イギリス| ||<即位>ストラスカイト王「Dyfnwal 1世」(~908年死去)
889年1月3日-08:00|中国| ||唐・文徳1年11月28日|奉国軍の將の申叢が秦宗權を捕らえた
889年1月29日-08:00|中国| ||唐・文徳1年12月24日|山南西道節度使の楊守厚が兗州を陥落させた
889年2月4日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真聖女王3年|新羅の沙伐州に元宗らの反乱がおこる
889年2月4日-08:00|中国| ||南詔・嵯耶1年|南詔の隆舜が嵯耶(-897年)と改元
889年2月4日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年1月1日|唐・昭宗が龍紀と改元
889年2月16日-01:00|イタリア| ||<即位>イタリア対立王「スプレート公ウイート」ロターリオ1世の外曾孫、ベレンガリオ1世の政敵として王位請求(⇒8910221、フランク・ローマ皇帝~08941212死去)

0900迄 (1424件)

889年2月27日-09:00|日本| ||仁和5年1月24日|<死去>嵯峨天皇皇女仁子内親王(母:大原浄子、第27代伊勢斎王)

889年3月11日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年2月6日|朱全忠が秦宗權を捕らえて献上

889年4月8日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年3月5日|錢鏐が蘇州を陥落させ、刺史の徐約を追放

889年5月4日-09:00|日本| ||寛平1年4月|東国の賊首物部氏永が蜂起

889年5月30日-09:00|日本| ||寛平1年4月27日|仁和から寛平に改元

889年6月14日-09:00|日本| ||寛平1年5月13日|桓武天皇の曾孫高望王ら5人に平姓を与える(桓武平氏)

889年7月2日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年6月|楊行密が宣州を陥落させ、宣歙觀察使の趙鐸がここに死んだ

889年7月2日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年6月|李克用がヱ州を寇した

889年7月2日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年6月|廬州刺史の蔡儔が叛いて孫儒についた

889年7月2日 07:00|日本|京都府京都市|寛平1年6月|京都洪水、餓死者多数

889年8月30日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年8月|孟遷が叛いて李克用についた

889年10月28日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年10月|宣歙觀察使の楊行密が常州を陥落させ、刺史の杜陵がここに死んだ/錢鏐が潤州を陥落させた

889年10月28日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年10月|平盧軍節度使の王敬武が亡くなると、その子の王師範が留後を自称し、棣州を陥落させ、刺史の張蟾がここに死んだ

889年12月26日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年12月|孫儒が常・潤の二州を陥落させた

890年-05:30|インド| |||西北インドに、ヒンドゥー・シャヒー朝がおこる

890年-04:00|アルメニア| |||<死去>バグ・ラトゥニ朝アルメニア王「アショト1世」

890年-04:00|オマーン| |||<即位>オマーン(元首)イマーム・アッザン・ビン・タミン

890年-04:00|アルメニア| |||<即位>バグ・ラトゥニ朝アルメニア王「スハバト1世」(~914年、死去)

890年-01:00|ドイツ| |||<就任>バイエルン辺境伯「エンゲルベロ」(~895年バイエルン辺境伯の称号はルートヴィヒに取って代わられた)

890年-01:00|デンマーク/イギリス| |||イングランド王とデーン人首長が平和条約を締結

890年 00:00|イギリス| |||<死去>イーストアングリア王「Athelstan2世」

890年 00:00|イギリス| |||<即位>イーストアングリア王「Eohric」(~09021213戦死)

890年1月9日-08:00|中国| ||唐・龍紀1年12月15日|眉州刺史の山行章が叛いて王建についた

890年1月23日-09:00|日本/朝鮮/中国| ||渤海・寛明18年12月29日|渤海使、伯耆国に来着

890年1月25日-08:00|中国| ||唐・大順1年1月1日|唐・昭宗が大順(-891年12月)と改元

890年2月8日-08:00|中国| ||唐・大順1年1月15日|簡州の將の杜有遷がその刺史の員虔嵩を捕らえ、叛いて王建についた

890年2月12日-09:00|日本| ||寛平2年1月19日|<死去>僧正遍照(75、生年816年、元名:良岑宗貞/歌人・六歌仙・三十六歌仙の一人)

890年2月25日-08:00|中国| ||唐・大順1年2月3日|資州の將の侯元綽がその刺史の楊戡を捕らえ、叛いて王建についた

890年5月3日-08:00|中国| ||唐・大順1年4月11日|嘉州刺史の朱実が叛いて王建についた

890年5月13日-08:00|中国| ||唐・大順1年4月21日|戎州の將の文武堅がその刺史の謝承恩を捕らえて、叛いて王建についた

890年5月20日-09:00|日本| ||寛平2年4月28日|寛平大宝を鑄造

890年6月8日-08:00|中国| ||唐・大順1年5月17日|昭義軍の將の安居受がその節度使の李克恭を殺して、叛いて朱全忠についた

890年6月21日-08:00|中国| ||唐・大順1年6月|この月、河東の將の安知建がヱ・ラ・磁の三州をもって叛いて朱全忠についた

890年6月27日-08:00|中国| ||唐・大順1年6月7日|雅州の將の謝從本がその刺史の張承簡を殺して、叛いて王建についた

890年7月6日 07:00|日本|京都府京都市|寛平2年6月16日|京都地震で珍皇寺焼亡

890年7月21日-08:00|中国| ||唐・大順1年7月|楊行密が潤州を陥落させた

890年8月5日-01:00|フランス| |||<死去>アキテーヌ公「ラムルフ2世」

890年8月5日-01:00|フランス| |||<死去>ノルウェー伯「Ranulph2世」

890年8月5日-01:00|フランス| |||<即位>アキテーヌ公・ノルウェー伯「エブル・マンゼ(庶子公)」(~892年)

890年8月19日-08:00|中国| ||唐・大順1年8月|楊行密が蘇州を陥落させた/淮南節度使の孫儒が潤州を陥落させた

890年9月18日-08:00|中国| ||唐・大順1年9月|李克用がロ州を陥落させた/楊行密が常・潤の二州を陥落させた

890年10月10日-01:00|フランス| |||<死去>ノルウェー伯「アタール」

890年10月18日-08:00|中国| ||唐・大順1年閏9月|孫儒が常州を陥落させた

890年11月16日-08:00|中国| ||唐・大順1年10月1日|李克用がヱ・ラ・磁の三州を陥落させた

890年11月16日-08:00|中国| ||唐・大順1年10月1日|蜀州刺史の李行周が叛いて王建についた

890年12月15日-09:00|日本| ||寛平2年10月30日|修理左右坊城使を修理式に合併

890年12月16日-08:00|中国| ||唐・大順1年11月|この月、張濬が李克用と陰地で戦い、敗れた

890年12月16日-08:00|中国| ||唐・大順1年11月|孫儒が蘇州を陥落させた

890年12月28日-09:00|日本| ||寛平2年11月13日|修理職を木工寮に合併

890年12月30日-08:00|中国| ||唐・大順1年11月15日|李匡威が蔚州を陥落させた

891年-08:00|インドネシア| |||<即位>スダガラ7王国マハラジャ「Prabu Darmaraksa」(~895年)

0900迄 (1424件)

891年-04:00|ジョーシア| |||<死去>イベリア公「ケルゲン1世」
891年-01:00|イタリヤ| |||<就任>フリウリ辺境伯「ワルフト」(~896年死去)
891年-01:00|セルビア| |||<即位>セルビア王「フリスラフ」ムティミルの長男(~892年)
891年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネチア大公「オリ」(~892年死去)
891年1月14日-08:00|中国| ||唐・大順1年12月|李克用が晋州を陥落させた
891年2月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真聖女王5年|弓裔の指導で新羅北部の農民が蜂起し、江原道一帯を支配下におく
891年2月21日-01:00|イタリヤ/ドイツ/フランス/オーストリア| |||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝「グイト」ロタリス1世の曾孫(~8941212死去)
891年2月21日-08:00|中国| ||唐・大順2年1月9日|甘露鎮使の陳可言が常州を陥した/錢鏐が蘇州を陥落させた
891年2月24日-09:00|日本| ||寛平3年1月13日|<死去>関白太政大臣藤原基経(56)
891年4月14日-09:00|日本| ||寛平3年3月2日|長門国に大風雨/官舎などが倒壊
891年5月-01:00|イタリヤ| |||<即位>イタリヤ対立王「ランバート」共同統治(⇒08920430、フランク・ローマ皇帝~08941212~8981015、東フランク王アルヌルフに敗れて追放され死去)
891年5月-01:00|スペイン| |||アフト・アッラーフがコルトバ南方のブライでカールを撃退
891年5月12日-08:00|中国| ||唐・大順2年4月1日|彗星が太微に入った
891年6月4日-08:00|中国| ||唐・大順2年4月24日|王建が成都を寇した
891年6月10日-08:00|中国| ||唐・大順2年5月|孫儒が和・ジヨの二州を陥落させた
891年7月10日-08:00|中国| ||唐・大順2年6月|楊行密が和・ジヨの二州を陥落させた
891年7月26日-09:00|日本| ||寛平3年6月17日|国司の許可無く諸院・諸宮・諸家使が諸国に入部する事を禁じる
891年8月8日-08:00|中国| ||唐・大順2年7月|李克用が雲州を陥落させ、防禦使の赫連鐸が退渾に逃れた
891年9月14日-01:00|パチン| |||<死去>第110代ローマ教皇「ステファヌス6世」
891年9月29日-08:00|中国| ||唐・大順2年8月23日|王建が成都を陥落させ、劍南西川節度使陳敬瑄を捕らえて、留後を自称
891年10月6日-01:00|パチン| |||<就任>第111代ローマ教皇「フォルヌス」(~08960404死去)
891年11月10日-08:00|中国| ||唐・大順2年10月5日|朱全忠が宿州を陥落させた
891年12月17日-08:00|中国| ||唐・大順2年11月13日|曹州の將の郭銖がその刺史の郭詞を殺し、叛いて朱全忠についた
891年12月29日-08:00|中国| ||唐・大順2年11月25日|朱全忠が寿州を陥落させた
892年-05:30|インド| |||<即位>東チャールヤ朝君主「Chalukya Bhima1世」(~921年)
892年-03:00|イェメン| |||<即位>ユフィリス王「Abd al-Qahir bin Ahmad bin Yu'fir」⇒「Ibrahim bin Muhammad」(~898年)
892年-03:00|イラク| |||カリフ・ムタミドが都をサマッラーよりバグダートに戻す
892年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ベネチア大公「オリ」
892年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア公「ムティミル」(~900年)
892年-01:00|フランス| |||<就任>フランク王国ヴェルマント伯「Herbert1世」(~907年)
892年-01:00|フランス| |||<就任>ポワティエ伯「Aymar」Emononの息子(~902年)
892年-01:00|セルビア| |||<即位>セルビア王「ペタル」ゴインクの息子(~917年)
892年-01:00|ドイツ| |||<即位>テューリンゲン公「コンラート」ランカウ伯、ドイツ王コンラート1世の父(~9060227死去)
892年-01:00|ドイツ| |||<退位>テューリンゲン公「ホット」2世
892年-01:00|セルビア| |||<退任>セルビア王「フリスラフ」いとこのペタル・ゴインクがイッチに破れ二人の兄弟(フランとステファン)と息子のザハリジェとともにクロアチアに逃れた
892年 00:00|イギリス| |||ウェセックス王国アルフレッドは再度デーン人が来襲すると4年に渡ってこれと交戦し撃退、デーンロ地方以外の全イングランドの王となってイングランド統一
892年2月2日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・真聖女王6年|甄萱は、農民一揆に乗じて挙兵し、武珍州(全羅南道光州)、更に完山州(全羅北道全州)を占領、後百済を建てる
892年2月15日-08:00|中国| ||唐・景福1年1月14日|朱全忠が孟州を陥落させ、河陽節度使の趙克裕を追放
892年2月22日-08:00|中国| ||唐・景福1年1月21日|唐・昭宗が景福(-893年12月)と改元
892年3月3日-08:00|中国| ||唐・景福1年2月|錢鏐が蘇州を陥落させた
892年3月11日-08:00|中国| ||唐・景福1年2月9日|朱全忠が邠州を寇したので、天平軍節度使の朱宣がこれを破った
892年4月1日-08:00|中国| ||唐・景福1年3月1日|楊行密が楚州を陥落させ、刺史の劉勣を捕らえた/また常州を陥落させ、刺史の陳可言がここに死んだ
892年4月12日-08:00|中国| ||唐・景福1年3月12日|武定軍節度使の楊守忠と龍劍節度使の楊守貞が楊守厚の兵と合流して梓州を寇した
892年4月26日-08:00|中国| ||唐・景福1年3月26日|泉州刺史の王潮が福州を寇した
892年4月30日-01:00|ドイツ/イタリヤ/フランス/オーストリア| |||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝「ランバート」グイトの息子(08941212まで共同統治⇒08960222対立皇帝~08981015、東フランク王アルヌルフに敗れて追放され死去)
892年6月8日-09:00|日本| ||寛平4年5月10日|菅原道真らが六国史の記事を事項別に分類した「類聚国史」200巻を完成
892年7月3日-08:00|中国| ||唐・景福1年6月6日|楊行密が揚州を陥落させた
892年8月-05:00|ウズベキスタン/イラン| |||<死去>サマン朝(サマルカンド・フェルガナ)アミール「ナシル1世」

0900迄 (1424件)

892年8月-05:00|ウズベキスタン/イラン| ||<即位>サマン朝アミール「イスマイル・サマーニ」(~9071124死去)
892年8月15日-09:00|日本| ||寛平4年7月19日|造橋所を廃止、穀倉院に合併
892年8月23日-08:00|中国| ||唐・景福1年7月27日|鳳翔隴右節度使の李茂貞が鳳州を陥落させ、感義軍節度使の満存が興元に逃れ、そのまま興・洋の二州を陥落させた
892年8月26日-08:00|中国| ||唐・景福1年8月1日|李茂貞が興元を寇し、楊守亮・満存が岷州に逃れた
892年10月14日-03:00|イラク| ||<死去>バグダード・アッバース朝第15代カリフ「ムタミド」バグダードで病死
892年10月15日-03:00|イラク| ||<即位>バグダード・アッバース朝第16代カリフ「ムタディド」(~9020405バグダードで病死)
892年10月25日-08:00|中国| ||唐・景福1年10月|蔡儔が廬州をもって叛いて朱全忠につき、河東の將の李存孝が洺州をもって叛いて朱全忠についた
892年11月23日-08:00|中国| ||唐・景福1年11月1日|武寧軍の將の張勳・張諫が濠・泗の二州をもって叛いて朱全忠についた
892年11月27日-08:00|中国| ||唐・景福1年11月5日|朱友裕が濮州を陥落させ、刺史の邵儒を捕らえた/孫儒の將の王壇が濮州を陥落させ、刺史の蔣?が越州に逃れた
893年-05:30|インド| ||<即位>東ガング朝国王「デーヴェントラヴァルマン4世」
893年-05:30|インド| ||南インドでチョーラ朝がパッラヴァ朝を破る
893年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| ||寛平5年<即位>カラハン朝ハーン「ハズル・アルスラン・ハン」(~920年)、「Oghulcak Khan」(~940年)
893年-04:00|オマーン/イラク| ||オマーンはアッバース朝の一部(~931年)
893年-03:30|イラン| ||<即位>デューファイト王朝国王「Umar ibn Ahmad ibn Abd al-Aziz」(~896年)
893年-02:00|ブルガリア| ||<即位>ブルガリア帝国ハ「シモン1世」(⇒913年、皇帝~9270527死去。63歳)
893年-02:00|ブルガリア| ||<廃位>ブルガリア帝国ハ「ウラジミル」
893年-01:00|フランス| ||<死去>ウァロア伯「Pepin3世」
893年-01:00|スペイン| ||<就任>アラゴン伯「ガリンド・アスナル2世」アスナル・ガリンド2世の息子(~922年)
893年-01:00|フランス| ||<就任>ウァロア伯「Herbert1世」ウエルマントワ伯(~895年)
893年-01:00|フランス| ||<就任>メヌ伯「ガスリン2世」(~895年)
893年-01:00|フランス| ||<即位>アキテーヌ公「オヴ・エルニュ伯家ギヨーム1世(敬虔公)」(~9180706死去)
893年 00:00|イギリス| ||<死去>ダィフェド王「Hyfaidd ap Bledrig」
893年 00:00|イギリス| ||<即位>ダィフェド王「Llywarch ap Hyfaidd」(~904年死去)
893年1月22日-08:00|中国| ||唐・景福2年|黄河が決壊、河口が北に移動
893年1月28日-01:00|フランス| ||<即位>西フランク王「シャルル3世単純王」(08980103まで共同統治~9220630廃位~9291007獄死)
893年2月20日-08:00|中国| ||唐・景福2年2月|楊行密が常州を陥落させた
893年3月-05:00|キルギス/ウズベキスタン| ||サマン朝軍がシル川を越え、カルルク族を攻撃しタラスを占領
893年3月23日 12:30|イラン| ||イランのアルダビールで地震、死者15万人
893年5月6日-08:00|中国| ||唐・景福2年4月17日|彗星が太微に入った
893年5月9日-08:00|中国| ||唐・景福2年4月20日|朱全忠が徐州を陥落させ、武寧軍節度使の時溥がここに死んだ
893年5月21日-08:00|中国| ||唐・景福2年5月2日|王潮が福州を陥落させ、范暉がここに死に、王潮が留後を自称
893年5月30日-09:00|日本/韓国| ||寛平5年5月11日|新羅の賊徒が肥前松浦郡・肥後飽田郡に来襲。対馬守文屋善友らが征伐
893年6月7日-09:00|日本| ||寛平5年5月19日<死去>藤原高経(貴族・歌人)
893年8月16日-08:00|中国| ||唐・景福2年7月|楊行密が廬州を陥落させ、蔡儔がここに死んだ
893年9月3日-09:00|日本| ||寛平5年7月19日<死去>在原行平(76/公卿・歌人)
893年9月14日-08:00|中国| ||唐・景福2年8月|この月、楊行密が歙州を陥落させた
893年10月14日-08:00|中国| ||唐・景福2年9月|この月、昇州刺史の馮弘鐸が叛いて楊行密についた
893年10月30日-08:00|中国| ||唐・景福2年9月17日|嗣覃王李嗣周が李茂貞と興平で戦い、敗れた
893年11月1日-08:00|中国| ||唐・景福2年9月19日|李茂貞が京師を侵した
893年11月7日-09:00|日本| ||寛平5年9月25日|菅原道真が「新撰万葉集」を編纂
893年11月12日-08:00|中国| ||唐・景福2年10月1日|楊行密が舒州を陥落させた
894年-04:00|ジョージア| ||<即位>アブハジア王「コンスタンティヌス3世」(~923年)
894年-01:00|アルジェリア| ||<即位>ルスラム朝イマム「アブー・ハーティブ・ユースフ」アブー・アル・ヤクザーン・ムハンマドの子(~895年)
894年1月11日-08:00|中国| ||唐・景福2年12月|邵州刺史の鄧処訥が潭州を陥落させ、欽化軍節度使の周岳がここに死に、処訥が留後を自称
894年2月10日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年<死去>渤海国王「大玄錫」
894年2月10日-08:00|中国| ||渤海・慶成1年<即位>渤海国王「大伋イ」(~天祐4年(907年)死去)
894年2月10日-08:00|中国| ||渤海・慶成1年|渤海の大伋イが慶成(-906年)と改元
894年2月10日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年1月1日|唐・昭宗が乾寧(-898年旧8月)と改元
894年3月-01:00|チエコ/スロバキア/ハンガリー| ||<死去>モラヴィア王「モイミル朝」「スヴァトプルク1世」
894年3月-01:00|チエコ/スロバキア/ハンガリー| ||<即位>ニトラ公「スヴァトプルク2世」(~899年2月)
894年3月-01:00|チエコ/スロバキア/ハンガリー| ||<即位>モラヴィア王「モイミル2世」スヴァトプルク1世の息子。領地の一部を受け取り、兄弟のスヴァトプルク2世はニトラを、同じく兄弟のフレドスラフは現代のブラチスラヴァの地域を受け取った(~906年死去)
894年3月12日 12:00|アルメニア| ||アルメニア・エレバンで地震(M7.6)、死者2万人

0900迄 (1424件)

894年4月8日-01:00|フランス| |||<死去>トワ伯・シャトダン伯「Adalelm」
894年4月8日-01:00|フランス| |||<就任>トワ伯「Richard」(~921年死去)
894年4月30日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年3月21日|李克用がケ州を寇し、李存孝を捕らえてこれを殺した
894年5月22日-09:00|日本/韓国| ||寛平6年4月14日|新羅の海賊が対馬島に來襲。大宰府はこれを迎え討つ
894年6月2日-09:00|日本| ||寛平6年4月25日|大江千里が勅を受け古今和歌百二十首撰修
894年6月7日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年5月|この月、孫儒の將の劉建鋒・馬殷が潭州を陥落させ、武安軍節度使の鄧処訥がここに死に、劉建鋒が留後を自称/武岡指揮使の蔣勲が邵州を陥落させた
894年6月18日-09:00|日本| ||寛平6年5月12日|貴賤を問わず諸人の乗車を禁じる
894年6月21日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年5月15日|王建が彭州を陥落させ、威戎軍節度使の楊晟がここに死んだ
894年7月7日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年6月|大同軍防禦使の赫連鐸が李克用と雲州で戦い、ここに死んだ
894年8月5日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年7月|李茂貞が叻州を陥落させた
894年10月3日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年9月1日|李克用が叻州を陥落させ、昭義軍節度使の康君立がここに死んだ
894年10月7日-09:00|日本| ||寛平6年9月5日|朝、対馬守文屋善友は郡司士卒を励まして新羅の賊徒45艘を弩をかまえた数百の軍勢で迎え撃ち、220人を射殺、計300名を討ち取った
894年10月19日-09:00|日本/韓国| ||寛平6年9月17日|対馬守文屋善友らが新羅の賊を破る
894年10月20日-09:00|日本| ||寛平6年9月18日|諸国の検非違使の任期を定める
894年11月1日-09:00|日本| ||寛平6年9月30日|菅原道真の建言により遣唐使を廃止
894年11月2日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年冬|この冬、楊行密が黃州を陥落させ、刺史の呉討を捕らえた
894年11月6日-09:00|日本| ||寛平6年10月5日|右検非違使庁を設置
894年12月1日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年11月|李克用が武州を陥落させた
894年12月12日-01:00|イタリア| |||<死去>フランク・ローマ皇帝・イタリア王(対立王)「ガイート」兼スレート公「ガイ3世」
894年12月12日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| |||<死去>フランク・ローマ帝国皇帝「ガイート」
894年12月12日-01:00|イタリア| |||<即位>イタリア対立王「スレート公ランベール」(~08981015)
894年12月12日-01:00|イタリア| |||<即位>スレート公「ランベルト2世」(~8981015死去)
894年12月31日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年12月|李克用が新州を陥落させた
895年-08:00|インドネシア| |||<即位>スダタ王国マハシヤ「Windusakti Prabu Dewageng」(~913年)
895年-03:00|イラク/シリア/アラブ| |||<即位>ハムダン朝アミール「アル・フサイン・イブン・ハマダン」(~915年)
895年-02:00|ギリシャ| |||<就任>イクリティヤ(クファ島)首長「ムハンマド・ブン・シュアイブ・アル＝ザル昆」(~910年)
895年-02:00|エジプト/イラク| |||アッバース朝がエジプトのトゥールン朝を滅ぼす
895年-01:00|フランス| |||<再任>メヌ伯「ロジャー」(~898年)
895年-01:00|スペイン| |||<死去>アルル伯「Theobald」
895年-01:00|ハンガリー| |||<死去>ハンガリー大公「アルモシュ」
895年-01:00|スペイン| |||<就任>アルル伯「Boso」(~911年)
895年-01:00|フランス| |||<就任>ヴァロア伯「Ermenfroij」(~919年)
895年-01:00|イタリア| |||<即位>スレート公「ガイ4世」(~897年暗殺される)
895年-01:00|ハンガリー| |||<即位>ハンガリー大公「アルバート」アルモシュの息子(~907年死去)
895年-01:00|ドイツ| |||<即位>バイエルン辺境伯「ルートボルト」(~09070704死去)
895年-01:00|ノルウェー| |||<即位>ヘデマルケン王「Ragnvald Haraldsson "Rettilbein"」
895年-01:00|イタリア| |||<即位>ベネチント大公「ガイ」(~897年暗殺される)
895年-01:00|アルジェリア| |||<即位>ルスラム朝イマム「ヤクーブ」アブー・サイード・アフラフの子(~899年)
895年-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<即位>ロリングア王「スヴェンヴ・オルト」東フランク王アルヌフの息子(~900年)
895年-01:00|ドイツ| |||<廃位>バイエルン辺境伯「エンゲルトル」称号はルートボルトに取って代わられた
895年1月27日-08:00|中国| ||唐・乾寧1年12月28日|李克用が幽州を陥落させた
895年2月21日-09:00|日本| ||寛平7年1月23日|<死去>嵯峨天皇皇子秀良親王(79)
895年3月30日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年3月|楊行密が濠州を陥落させ、刺史の張旻を捕らえた
895年4月20日-09:00|日本| ||寛平7年3月22日|王臣・諸家の私出挙を禁じる
895年4月29日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年4月|泰寧軍節度使の朱瑾が朱全忠と高梧で戦って、敗れ、その將の安福慶がここに死んだ
895年4月29日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年4月|楊行密が寿州を陥落させ、刺史の江從勗を捕らえた
895年5月28日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年5月|この月、李克用が絳州を陥落させ、刺史の王瑤がここに死んだ
895年6月-03:00|イラク| |||カリフ・ムタワイトが税制改革を行い穀物の収穫期を考慮して夏至に徴税を行う制度を設ける
895年6月4日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年5月8日|静難軍節度使の王行瑜・鎮国軍節度使の韓建と李茂貞が京師を侵し、太保として致仕した韋昭度と太子少師の李絳を殺した
895年7月-01:00|チチカカ/スロバキア/ハンガリー| |||ボヘミアはモラヴィアの宗主権下(ドイツが890年3月2日に承認)
895年7月30日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年7月5日|左右神策軍護軍中尉の駱全がと劉景宣と指揮使の王行実および李繼鵬がそむいた
895年8月1日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年7月7日|李克用が同州を陥落させた
895年8月24日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーザンブリア王「Godhefridhr Hardheknutsson」
895年8月24日 00:00|イギリス| |||<即位>ノーザンブリア王「Sightryggr Ivarsson」(~896年死去)

0900迄 (1424件)

895年9月9日-09:00|日本| ||寛平7年8月17日|六位以下の乗車を禁じる
895年9月9日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年8月17日|李繼鵬が処刑された
895年9月17日-09:00|日本| ||寛平7年8月25日|<死去>源融(生年822年/嵯峨天皇の第12皇子、従一位左大臣)
895年10月24日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年10月3日|李克用が王行瑜と梨園で戦い、これを破った
895年11月24日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年11月5日|李克用が王行瑜と龍泉で戦い、これを破った
895年12月9日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年11月20日|齊州刺史の朱瓊が叛いて朱全忠についた
895年12月14日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年11月25日|王建が利州を陥落させ、刺史の李繼弼がここに死んだ
895年12月21日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年12月2日|岷州防禦使の李繼雍・蓬州刺史の費存・渠州刺史の陳ハが叛いて王建についた
896年-08:00|インドネシア| ||<即位>古マラム王国国王「カイ・ワトゥマラン」(~899年)
896年-03:30|イラン| ||<死去>パハント朝太守「Rustam1世」
896年-03:30|イラン| ||<即位>デユラフト王朝国王「Abu Layla al-Harith」(~897年)
896年-03:30|イラン| ||<即位>パハント朝太守「Sharwin2世」(~930年死去)
896年-03:00|エチオピア/ソマリア| ||モガディシュなど、東アフリカ沿岸に交易拠点があいつぎ出現
896年-02:00|エジプト| ||<即位>ショワ・サルタン国アミール「Haboba」(~928年)
896年-01:00|イタリア| ||<再任>フリウリ辺境伯「ベレンガール1世」(~9240407死去)
896年-01:00|フランス| ||<死去>コンフラン伯「Miro1世」
896年-01:00|フランス| ||<死去>ナント伯「Berenga2世」
896年-01:00|イタリア| ||<死去>フリウリ辺境伯「ワルフド」
896年-01:00|オランダ| ||<死去>ヘント伯「Gerolf」
896年-01:00|フランス| ||<死去>レンヌ伯「Berengar2世」
896年-01:00|フランス| ||<就任>アンブリアス伯・ルシオン伯「Sunifred2世」(~915年死去)
896年-01:00|フランス| ||<就任>コンフラン伯「Wilfred1世毛深伯」(~8970811死去)
896年-01:00|オランダ| ||<就任>ヘント伯「ディルク1世」(~939年)
896年-01:00|フランス| ||<就任>モー伯「Herbert1世」(~907年死去)
896年-01:00|イタリア| ||<即位>イタリア王「ラルド」アルノルフォの子、父の共同王となる(~同年死去)
896年 00:00|アイスランド| ||<死去>ノーザンブリア王「Sightrygr Ivarsson」
896年 00:00|アイスランド| ||<即位>ノーザンブリア王「Knutr」(~899. 12)
896年1月2日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年12月14日|王建が梓州を寇した
896年1月4日-08:00|中国| ||唐・乾寧2年12月16日|通州刺史の李彦昭が叛いて王建についた
896年1月10日-09:00|日本| ||寛平7年12月22日|検非違使の職掌・誣告人半坐の制を制定
896年1月18日-02:00|エジプト| ||<死去>トゥールン朝アミール「フマーライフ・ブン・アフマド・ブン・トゥールン」殺害される
896年1月18日-02:00|エジプト| ||<即位>トゥールン朝アミール「ジャイシュ・ブン・フマーライフ」(~同年11月殺される)
896年1月19日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年1月1日|王建が龍州を陥落させ、刺史の田昉がここに死んだ
896年2月22日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| ||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝「アルヌルフ・フォン・ケルデン」東フランク王(~0899 1208死去)
896年2月22日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年閏1月5日|果州刺史の周雄が叛いて王建についた
896年4月4日-01:00|バチカン| ||<死去>第111代ローマ教皇「フォルモス」
896年4月11日-01:00|バチカン| ||<就任>第112代ローマ教皇「ボニファティウス6世」(~4. 26死去)
896年4月26日-01:00|バチカン| ||<死去>第112代ローマ教皇「ボニファティウス6世」
896年5月17日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年4月1日|武安軍が乱を起こし、その節度使の劉建鋒を殺し、その将の馬殷が留後を自称
896年5月18日-09:00|日本| ||寛平8年4月2日|五位以上の私営田禁止。百姓による荒田開墾規制を緩和
896年5月22日-01:00|バチカン| ||<就任>第113代ローマ教皇「ステファヌス7世」(~08970814死去)
896年5月29日-09:00|日本| ||寛平8年4月13日|鴨川堤での耕作を許す
896年6月15日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年5月|この月、キ州刺史の馮行章が叛いて楊行密についた
896年6月17日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年5月3日|楊行密が蘇州を陥落させ、刺史の成及を捕らえた/光州を陥落させ、刺史の劉存がここに死んだ
896年6月24日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年5月10日|成徳が黔州を陥落させ、武泰軍節度使の王建肇が成都に逃れた
896年7月14日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年6月1日|李茂貞が京師を侵し、嗣延王李戒丕がこれをふせいだ
896年7月30日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年6月17日|李茂貞と婁館で戦い、敗れた
896年8月12日-09:00|日本| ||寛平8年6月30日|<死去>宇多天皇女御藤原胤子(21)
896年8月12日-09:00|日本| ||寛平8年6月30日|藤原胤子の菩提を弔うために祖父である宮道弥益の居宅を転じて勧修寺とする
896年10月15日-09:00|日本| ||寛平8年9月5日|阿波国名方郡を名東・名西に分割
896年11月-02:00|エジプト| ||<死去>トゥールン朝アミール「ジャイシュ・ブン・フマーライフ」殺される
896年11月-02:00|エジプト| ||<即位>トゥールン朝第4代アミール「ハルーン・ブン・フマーライフ」(~09041230殺害される)
896年11月1日-09:00|日本| ||寛平8年9月22日|僧・善祐、伊豆配流
896年11月9日-08:00|中国| ||唐・乾寧3年10月|李克用が羅弘信と白龍潭で戦い、これを破った
897年-05:30|インド| ||<退位>パラヴァ朝君主「Aparajitavarman」
897年-04:00|オマーン| ||<即位>オマーン(元首)イマム・モハメッド・ビン・アル・ハッサン

0900迄 (1424件)

897年-03:00|イェン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルハデ^イ・イラルハック・ヤーヤ」建国(〜9110819死去)

897年-01:00|イタリヤ| |||<死去>スホ^レート公「ガ^イ14世」暗殺される

897年-01:00|イタリヤ| |||<死去>ベ^レチ^エント大公「ガ^イ」暗殺される

897年-01:00|ニジェール| |||<即位>ソガ^イ王国国王「アリ・ファイ」(〜909年)

897年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベ^レチ^エント大公「デ^レルチ2世」(〜900.1廃位)

897年-01:00|ハンガリー| |||アルバ^{ート}率いるマ^ジャール人がハンガ^{リー}平原へ移動

897年2月6日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年|<死去>大封民皇帝「隆舜」

897年2月6日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年|<即位>大封民皇帝「舜化貞」(〜902年)

897年2月14日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年1月9日|韓建が兵をもって行宮を囲み、扈蹕都將の李^イを殺した

897年2月25日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年1月20日|朱全忠がウ^ン州を陥落させ、天平軍節度使の朱宣がここに死んだ

897年3月7日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年2月|朱全忠がウ^ン州を寇し、泰寧軍節度使の朱瑾が淮南に逃れ、その子の朱用貞がウ^ン州をもって叛いて朱全忠についた/朱全忠は沂・海・密の三州を陥落させた

897年3月7日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年2月|保義軍節度使の王^{コウ}が河中を寇した

897年3月26日-09:00|日本| ||寛平9年2月20日|<死去>文徳天皇皇子惟喬親王(54/母:紀静子)

897年4月1日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年2月26日|王建が渝州を陥落させた

897年6月11日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年5月8日|朱全忠が黄州を陥落させ、刺史の瞿璋がここに死んだ

897年7月4日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年6月|李嗣周は李茂貞と奉天で戦い、敗れた

897年7月4日-09:00|韓国| ||新羅・孝恭王1年6月1日|<譲位>新羅王「真聖女王」

897年7月4日-09:00|韓国| ||新羅・孝恭王1年6月1日|<即位>新羅王「孝恭王」(〜912年死去)

897年7月11日-09:00|日本| ||寛平9年6月8日|<死去>源能有(生年845年/皇族)

897年8月4日-09:00|日本| ||寛平9年7月3日|<踐祚>「皇太子敦仁親王」7月13日60代醍醐天皇として即位

897年8月4日-09:00|日本| ||寛平9年7月3日|<退位>「第59代宇多天皇」

897年8月11日-01:00|アント^ラス^ペイン/フランス| |||<死去>ウ^{ルジ}ェ^イ伯・サル^グー^ニャ^イ伯・コンフラン伯「Wilfred1世毛深伯」

897年8月11日-01:00|アント^ラス^ペイン| |||<就任>ウ^{ルジ}ェ^イ伯「Sunifred2世」(〜948年)

897年8月11日-01:00|フランス/ス^ペイン| |||<就任>コンフラン伯・サル^グー^ニャ^イ伯「Miro2世」(〜927年死去)

897年8月11日-01:00|ス^ペイン| |||<就任>バル^レヒ^ャ伯「ギ^フレ²世ホ^レイ^ギフ^レ多毛伯の子」(〜911年死去)

897年8月14日-01:00|バ^チカン| |||<死去>第113代ローマ教皇「ステ^{ファ}ヌ7世」暴動を起こした民衆に捕らえられ殺害される

897年8月14日-01:00|バ^チカン| |||<就任>第114代ローマ教皇「ロマヌ」(〜897.11死去)

897年9月30日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年9月|錢鏐が湖州を陥落させ、忠国軍節度使の李繼徽が淮南に逃れた

897年11月-01:00|バ^チカン| |||<死去>第114代ローマ教皇「ロマヌ」

897年11月8日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年10月10日|遂州刺史侯紹が叛いて王建についた

897年11月11日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年10月13日|合州刺史の王仁威が叛いて王建についた

897年11月16日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年10月18日|王建が梓州を陥落させ、劍南東川節度使の顧彦暉がここに死んだ

897年11月29日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年11月2日|楊行密が朱全忠と清口で戦い、これを破った

897年12月-01:00|バ^チカン| |||<就任>第115代ローマ教皇「テ^オド^ルス2世」(〜08971220死去)

897年12月2日-08:00|中国| ||唐・乾寧4年11月5日|錢鏐が台州を陥落させた

897年12月18日-09:00|日本| ||寛平9年11月21日|<死去>文徳天皇皇女述子内親王(母:紀静子、第5代賀茂斎王)

897年12月20日-01:00|バ^チカン| |||<死去>第115代ローマ教皇「テ^オド^ルス2世」

897年12月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||新羅・孝恭王1年12月|新羅・真聖女王が金城(慶州)の北宮で死去

898年-07:00|バ^トナム| |||<即位>チャ^ンパ^ン王「ジャ^ヤ・シンハ^グアル^ン1世」(〜903年)

898年-04:00|オマーン| |||<即位>オマーン(元首)イマム:アッ^ガン[・]ビン[・]アル[・]ハッ^バー

898年-03:00|イェン| |||<即位>ユ^フイス王「As'ad bin Ibrahim」(〜944年)

898年-01:00|イタリヤ| |||<死去>サ^レリ公「ア^タナ^シウス」

898年-01:00|オランダ| |||<就任>エ^ノー伯「シ^ガール」(〜908年)

898年-01:00|フランス| |||<就任>メ^ヌス伯「ガ^ズリン3世」(〜900年)

898年-01:00|イタリヤ| |||<即位>サ^レリ公「ケ^レゴ^リ4世」(〜915年死去)

898年-01:00|フランス| |||<即位>ブル^ゴー^ニュ公「リ^シャール(正義公)」(〜921年)

898年-01:00|イタリヤ| |||マ^ジャール人がイタリヤへ侵入を開始

898年1月1日-01:00|フランス| |||<死去>アン^ジュー伯「ウ^ド」兼西フランク国王、ネ^ウスト^リア^ン辺境伯、ハ^リ伯/46歳

898年1月3日-01:00|フランス| |||<死去>西フランク王「ウ^ド」⇒シャル^ル3世単純王が単独統治(〜09220630)

898年1月3日-01:00|フランス| |||<就任>アン^ジュー伯「フル^ク1世赤顔伯」インゲ^ルゲ^リウス(アン^ジュ^ジェ)とア^デライ^ス・ダン^ボワ^ズの息子(〜942年死去/72歳)

898年1月18日-01:00|バ^チカン| |||<就任>第116代ローマ教皇「ヨ^ハヌ^ス9世」(〜09000105死去)

898年1月26日-08:00|中国| ||南詔・中興1年|南詔13代・舜化貞が中興と改元(〜902)

898年3月26日-08:00|中国| ||唐・乾寧5年3月|幽州盧龍軍節度使の劉仁恭の子の劉守文が滄州を陥落させ、義昌軍節度使の盧彦威がベ^ン州に逃れた

898年4月9日-09:00|日本| ||寛平10年3月15日|<死去>仁明天皇皇子国康親王(母:藤原賀登子)

898年5月20日-09:00|日本| ||昌泰1年4月26日|寛平から昌泰に改元

898年5月24日-08:00|中国| ||唐・乾寧5年5月|この月、馬殷が邵[・]衡[・]永の三州を陥落させ、刺史の蔣勲・楊師遠・

0900迄 (1424件)

唐旻がここに死んだ

898年5月26日-08:00|中国| ||唐・乾寧5年5月3日|朱全忠が邠州を陥落させ、刺史のケ善益がここに死んだ/また
ケ州を陥落させた

898年6月6日-08:00|中国| ||唐・乾寧5年5月14日|朱全忠が磁州を陥落させ、刺史の袁奉韜がここに死んだ

898年8月19日-08:00|中国| ||唐・乾寧5年7月28日|朱全忠が唐州を陥落させ、また隋州を陥落させ、刺史の趙匡リ
ンを捕らえた

898年9月10日-08:00|中国| ||唐・光化1年8月21日|朱全忠が鄧州を陥落させ、刺史の国湘を捕らえた

898年9月16日-08:00|中国| ||唐・光化1年8月27日|唐・昭宗が光化(-901年3月)と改元

898年10月6日-08:00|中国| ||唐・光化1年9月17日|錢鏐が蘇州を陥落させた

898年10月15日-01:00|イタリア| |||<死去>フランク・ローマ皇帝・イタリア王「ランベルト・ダ・スプレート」兼スプレート公「ランベルト2世」東フラン
ク王アルルフに敗れて追放される

898年10月15日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| |||<死去>フランク・ローマ帝国対立皇帝「ランバート」東フランク王アルルフに敗
れて追放され死去

898年10月15日-01:00|イタリア| |||<即位>スプレート公「アリベリック1世」(~922年)

898年10月21日-08:00|中国| ||唐・光化1年10月3日|朱全忠が安州を陥落させ、刺史の武瑜がここに死んだ

898年12月17日-08:00|中国| ||唐・光化1年11月|衢州刺史の陳岌が叛いて楊行密についた

899年-08:00|インドネシア| |||<即位>古マタラム王国国王「バリトゥン」(~911年)

899年-07:00|カンボジア| |||<即位>クメール王朝国王「ヤショヴァルマン1世(ヨサオヴァルマン1世)」全国を統一、ヤソダラプを王都とする

899年-04:00|オマーン| |||<即位>オマーン(元首)イマム:アブ・ダラー・ビン・モハメド

899年-03:30|イラン| |||<即位>サッド朝アフシン「Abdu Ubaydullah Muhammad Ibn Abi'l-Saj」(~901年死去)

899年-03:30|イラン| |||<即位>パダス・ニコ朝君主「Shahriyar3世 ibn Jamshid」(~938年)

899年-03:00|パレスチナ| |||<即位>カルマティヤ君主「Abu-Sa'id Jannabi」(~913.6死去)

899年-01:00|スペイン| |||<就任>カスティーリャ伯「Munio Nunez」(~901年)

899年-01:00|アルゼンチナ| |||<復位>ルスタム朝イマム「アブー・ハティフ・ユースフ」(~906年)

899年-01:00|スペイン| |||聖ヤコブの遺体が発見され、サンティアゴ・コンポステーラが建設

899年 00:00|イギリス| |||ウェールズ地方のブリトン人がイングリッド王の宗主権を認める

899年2月2日-08:00|中国| ||唐・光化1年12月18日|李罕之が涇州を陥落させ、節度留後を自称/李克用が沢州を陥
落させた

899年2月14日-08:00|中国| ||唐・光化2年1月|この月、李罕之が沁州を陥落させた/劉仁恭が貝州を陥落させた

899年3月15日-08:00|中国| ||唐・光化2年2月1日|朱全忠が蔡州を陥落させ、奉国軍節度使の崔洪が淮南に逃れ
た

899年4月27日-09:00|日本| ||昌泰2年3月14日|<死去>為子内親王(生年生年未詳/皇族)

899年5月7日-08:00|中国| ||唐・光化2年3月24日|朱全忠が沢州を陥落させた

899年6月-03:00|サウジアラビア| |||アハサ地方でカルマ特派が独立国家を樹立

899年7月26日-08:00|中国| ||唐・光化2年6月15日|保義軍が乱を起こし、その節度使の王キョウを殺して、その将の
李ハが叛いて朱全忠についた

899年8月10日-08:00|中国| ||唐・光化2年7月1日|海州の成将の陳漢賓がその州をもって叛いて楊行密についた

899年8月10日-08:00|中国| ||唐・光化2年7月1日|馬殷が道州を陥落させ、刺史の蔡結がここに死んだ

899年9月9日-08:00|中国| ||唐・光化2年8月|李克用が沢・ロ・懐の三州を陥落させた

899年10月26日 00:00|イギリス| |||<死去>アングロサクソン王「Alfred Athelwulfes sunu(アルフレッド大王)」約50歳

899年10月26日 00:00|イギリス| |||<即位>アングロサクソン王「エドワード長兄王」アルフレッド大王とエルフスウィスの男子(~924071
7死去)

899年10月27日-09:00|日本| ||昌泰2年9月19日|相模国足柄峠・上野国碓氷峠に関所を設ける

899年12月 00:00|イギリス| |||<即位>ノザンブリア王「Athelwald Athelraedes sunu」(~09021213死去)

899年12月7日-08:00|中国| ||唐・光化2年11月|馬殷が郴・連の二州を陥落させ、刺史の陳彦謙・魯景仁がここに
死んだ

899年12月8日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| |||<死去>フランク・ローマ帝国皇帝・東フランク王・ケルテン公「アルルフ・フォン・ケル
テン」

899年12月8日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| |||<就任>フランク・ローマ帝国宰相「マイツ大司教ハット」(1回目~09000204
)

899年12月17日-08:00|中国| ||唐・光化2年11月11日|保義軍の将の朱簡がその節度使の李ハを殺して、叛いて朱
全忠についた

900年-05:30|インド| |||<建国>カウリ国

900年-05:30|インド| |||<建国>ケワリエル国

900年-05:30|インド| |||<即位>パネンティヤ朝君主「Maravarman Rajasimha3世」(~920年)

900年-05:30|インド| |||チャンバ国首都がチャンバに移転

900年-05:30|インド| |||ヤルルン王朝の西パット分家により、ムガ・リス・スル・グスマ国設立

900年-04:00|オマーン| |||<即位>オマーン(元首)イマム:アル=サルト・ビン・Al-ガジム→同年、イマム:アル=ハサン・ビン・サイド

900年-02:00|ウクライナ| |||クリミアはヘンネクが支配(~1030年)

900年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア公「クラジミール1世」(~908年)

900年-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「ヒュー1世」(~933年)

900年-01:00|スペイン| |||アンダルスでアラブ領主ハッジ・ヤジューと西ウマイヤ朝が対立

0900迄 (1424件)

900年 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「Domhnall mac Causantin(ドナルド2世“マダム”ないし“狂王”)」

900年 00:00|イギリス| |||<死去>ホイス王「マフィン・アブ・ドル」

900年 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「Constantin mac Aedha(コンスタンティン2世中年王)」(~943年)

900年 00:00|イギリス| |||<即位>ホイス王「ルウェリン・アブ・マフィン」(~942年死去)

900年 06:00|アメリカ| |||このころ、北米でトウモロコシを主としたミシシッピ文化が誕生

900年1月-01:00|イタリア| |||<即位>ベネチア大公「アタルフ1世」カファ公(~910年死去)

900年1月-01:00|イタリア| |||<廃位>ベネチア大公「ラデルフス2世」

900年1月5日-01:00|パチン| |||<死去>第116代ローマ教皇「ヨハネス9世」

900年1月21日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>東フランク王「ルートヴィヒ幼童王」アルヌフ・フォン・ケルテンの息子(~9110920死去)

900年2月1日-01:00|パチン| |||<就任>第117代ローマ教皇「ベネディクトゥス4世」(~9030730死去)

900年2月4日-09:00|韓国| ||後百済・正開1年|<即位>後百済「甄萱」(~935年)国号を百済と定め正開と改元

900年2月4日-09:00|日本| ||昌泰3年|魂生大明神創建(大鷲神社・千葉県安食)<男性器を祀る>

900年2月4日-08:00|中国| ||唐・光化3年|中国・唐代昭宗が宦官に幽閉され、皇太子の李裕が宦官によって帝位に擁立される

900年2月4日-01:00|ドイツ/フランス/オーストリア/イタリア| |||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝・東フランク王「ルートヴィヒ4世幼童王」(~9110920死去)

900年5月-03:30|イラン| |||サーマン朝のイスマイル・ブン・アフマドが、サッファール朝のアムル・ブン・アッライスを破り、パルで捕虜とする、ホラサンを併合

900年5月2日-09:00|日本| ||昌泰3年4月1日|<死去>光孝上皇皇太后班子女王(68/父:桓武天皇皇子仲野親王、宇多天皇生母)

900年6月22日-09:00|日本| ||昌泰3年5月23日|<死去>太皇太后藤原明子(73/文徳天皇の女御、清和天皇の母)

900年8月13日-01:00|フランス/ベルギー/ドイツ/ルクセンブルグ/オランダ| |||<死去>ロリングア王「ズヴェンヴルト」

900年8月17日-09:00|日本| ||昌泰3年7月20日|<死去>文徳天皇皇女晏子内親王(母:藤原列子. 第30代伊勢斎王)

900年9月4日-01:00|ドイツ/フランス/オーストリア/イタリア| |||<就任>フランク・ローマ帝国摂政「マイツ大司教ハット」(~9110924)

900年9月21日-08:00|中国| ||唐・光化3年8月25日|李克用がラク州を陥落させ、刺史の朱紹宗を捕らえた

900年9月27日-09:00|日本| ||昌泰3年9月|奨学院を大学寮南曹とする

900年9月27日-08:00|中国| ||唐・光化3年9月|朱全忠がラク州を陥落させた/錢鏐がフ州を陥落させ、刺史の王壇が宣州に逃れた

900年9月27日-08:00|中国| ||唐・光化3年9月|衢州刺史の陳岌が叛いて錢鏐についた

900年10月3日-03:30|イラン| |||<死去>アラヴィー朝エミール「ムハンマド・イブン・ザイド」

900年10月5日-01:00|イタリア| |||<即位>イタリア国王「フランク・ニューギルトヴィヒ3世」フランク・ニューギルトヴィヒ3世(⇒9010215からフランク・ローマ皇帝~902年6月)

900年10月25日-08:00|中国| ||唐・光化3年9月29日|朱全忠が瀛州を陥落させた

900年10月27日-08:00|中国| ||唐・光化3年10月2日|朱全忠が景州を陥落させ、刺史の劉仁霸を捕らえた

900年11月1日-08:00|中国| ||唐・光化3年10月7日|朱全忠が莫州を陥落させた

900年11月21日-08:00|中国| ||唐・光化3年10月27日|朱全忠が祁州を陥落させ、刺史の楊約がここに死んだ

900年11月24日-08:00|中国| ||唐・光化3年10月30日|定州を陥落させ、義武軍節度使の王珂が太原に逃れた

900年11月29日-08:00|中国| ||唐・光化3年11月5日|左右神策軍中尉の劉季述と王仲先と内枢密使の王彦範および薛齊アが乱を起こす

900年12月4日-08:00|中国| ||唐・光化3年11月10日|<即位>唐第23代皇帝「(徳王李裕)李裕」(~901年1月24日)

900年12月4日-08:00|中国| ||唐・光化3年11月10日|<廃位>唐第22代皇帝「昭宗李敏」クーデターによって